

名家
小學
記事
文題

齋藤時泰著
上編

特34

764

300989-000-9

特34-764

小學記事文題(名家名勝) 卷之上

齋藤 時泰 / 著

M12.6

ADA-0007



東奧齋藤時泰著

名家小學紀書文題

版權免評

江島萬笈閣藏

小學紀書文題序

天地之元音。發於人聲。人
聲之象形。寄於點畫。有豉
畫而後有文章。有文章而
後有辭。金匱其平。恢擴
性靈。發揮名理。今也海內
人文。麟焉。炳焉。都乎。咸武而

704

天下小學之童。苦於文科。擣藻揆筆。吐露胸臆之所。凝結。適其實用者。殆鮮矣。此故文辭鬱勃。艷雅流麗之氣。韜精而不發。含英而不伸。蓋文書雖多。高尚深淵。以不適其器也。萬笈閱有見於此。

清余彙材之書。課暇聊陳辭。抽毫。奔放錯落。編成一書。以充小學作文之餽糧。聲色映水。寄於文字。學童能開發其心靈。振興其菁英。進於優遊自得之境者。又應足慰雪案旬日之勞。是為序。

明治十二己卯春二月

東山齋藤時泰撰

子夏厚仙の書



名家小學記事文題

凡例

一 此書ハ。名家名勝ノ題ヲ選ビ。小學紀支論説ノ作例ヲ舉ゲ。生徒ヲシテ模擬操縦實踐シ易カラシム。

一 上卷ハ。更ニ紀事文ヲ録シ。長章高篇ヲ要セズ。文趣短簡擬シ易ク入り易カラシム。

一 下卷ハ。論説文例ヲ録シ。務メテ青年生徒ヲシテ豪蕩銳進ノ氣力ヲ作興セシムルヲ專ラトス。

一 每卷上閣ニ雄言逸語ヲ撰録シ綴文聯絡ノ
 便ニ供ス希クハ小學生徒ノ筆下思想ヲ開
 發シテ精神ヲ養ヒ氣力雄壯文ヲ作ルヲ是
 望ム。

明治十二年四月 編者 識

名家小學紀事文題目錄

卷之上 紀事類

- ① 東京皇城ノ記
- ② 吹上御庭ノ記
- ③ 赤坂離宮ノ記
- ④ 學校新築ノ記
- ⑤ 櫻田門紀事
- ⑥ 内務省紀事
- ⑦ 勸工場紀事
- ⑧ 陸軍省紀事
- ⑨ 印刷局紀事
- ⑩ 警視本署紀事
- ⑪ 八重洲河岸ノ記
- ⑫ 東京鎮臺紀事
- ⑬ 尾張街新聞社紀事
- ⑭ 電信中央局ノ記
- ⑮ 新橋鐵道局ノ記
- ⑯ 東名月ヲ踏ムノ記
- ⑰ 橋場津頭螢ヲ觀ルノ記
- ⑱ 忍岡蓮ヲ賞スルノ記
- ⑲ 道灌山觀杜鵑花ノ記
- ⑳ 金澤文庫ノ記

① 芝浦ノ記

② 梅巖山ノ記

③ 稻村寄ノ記

④ 關原古戰場ノ記

⑤ 姊川古戰場ノ記

⑥ 能州七尾ノ記

⑦ 熱海温泉ノ記

⑧ 平安城ノ記

⑨ 金剛山ノ記

⑩ 目黒不動ノ記

⑪ 堀ノ内妙法寺ノ記

⑫ 池上水門寺ノ記

⑬ 三田濟海寺ノ記

⑭ 鶴岡神社ノ記

⑮ 鎌倉大佛ノ記

⑯ 桶峽ノ記

⑰ 箱館戦争ノ記

⑱ 清見瀉ノ記

⑲ 甲州猿橋ノ記

⑳ 芳山ノ記

㉑ 須磨浦ノ記

㉒ 千代寄ノ記

㉓ 淀橋ノ記

㉔ 武藏野原ノ記

① 北上川紀事

② 梅柳山木母寺ノ記

③ 飛鳥山ノ記

④ 東叡山ノ記

⑤ 兩國橋ノ記

⑥ 隅田河堤ノ記

⑦ 竹橋兵營ノ記

⑧ 砲兵本廠ノ記

⑨ 女子師範學校ノ記

⑩ 橋場津渡ノ記

⑪ 白鬚神祠ノ記

⑫ 品江臺紀事

⑬ 狹山ノ池ノ記

⑭ 松島ノ記

⑮ 駒籠花園ノ記

⑯ 金龍山ノ記

⑰ 龜井戸臥龍梅ノ記

⑱ 九段招魂社ノ記

㉑ 學習院ノ記

㉒ 横須賀造船場ノ記

㉓ 日暮里畔ノ記

㉔ 三圍神社ノ記

㉕ 大學醫學部ノ記

㉖ 川寄大師堂ノ記

紀要文題 卷之十一 雜錄 效隆齋

⑤ 武州御嶽山ノ記

⑤ 蒲田梅林ノ記

⑤ 多摩川ノ記

⑤ 神奈川臺ノ記

⑤ 杉田村梅園ノ記

⑤ 金澤八景ノ記

⑤ 能見堂ノ記

⑤ 工部美術館ノ記

⑤ 泉岳寺ノ記

⑤ 増上寺ノ記

⑤ 愛宕山遠景ノ記

⑤ 櫻田教導團紀事

⑤ 東京府紀事

⑤ 日比谷練場紀事

⑤ 霞關眺望ノ記

⑤ 忍岡ノ記

⑤ 柳橋ノ記

⑤ 東橋ノ記

⑤ 拾軒店ノ記

⑤ 駿河臺ノ記

⑤ 茗溪ノ記

⑤ 鶯橋ノ記

⑤ 赤井里ノ記

⑤ 山吹里紀事

⑤ 護國寺ノ記

⑤ 根岸里紀事

⑤ 川中島古戦ノ記

⑤ 英彦山ノ記

⑤ 櫻島ノ記

⑤ 書寫山ノ記

⑤ 錦帶橋ノ記

⑤ 鶴越ノ記

⑤ 天橋立ノ記

⑤ 宇治川戰蹤ノ記

⑤ 阿蘇岳ノ記

⑤ 荜克禮紀事

⑤ 哥蘭的紀事

⑤ 德勒克品行紀事

⑤ 花納爾紀事

⑤ 森蘭丸紀事

⑤ 茶博利休紀事

⑤ 本多忠勝紀事

⑤ 天德寺了伯紀事

⑤ 織田右府紀事

⑤ 柴田勝家紀事

⑤ 山田一豊妻紀事

⑤ 稻葉一徹紀事

⑤ 華聖頓紀事

紀要文題 卷之十一 目録三一 高良月夜

- ① 司馬溫公紀事
- ② 張翰想鄉紀事
- ③ 車胤集螢紀事
- ④ 司馬光警枕紀事
- ⑤ 豐太閤紀事
- ⑥ 博物館紀事
- ⑦ 日本橋紀事
- ⑧ 水天宮紀事
- ⑨ 琵琶湖水ノ記
- ⑩ 東京名園ノ記

卷之下 論說類

一 都人風流ノ論

二 富國強兵ノ論

- ⑪ 匡衡勤學紀事
- ⑫ 孫康讀書紀事
- ⑬ 相如題橋欄紀事
- ⑭ 湊川楠公紀事
- ⑮ 東京裁判所紀事
- ⑯ 國立銀行紀事
- ⑰ 人形街夜觀ノ記
- ⑱ 霞浦ノ記
- ⑲ 海軍省紀事

- ③ 教育獎勵ノ論
- ④ 千古ノ弊ヲ破ル論
- ⑤ 教道人心ヲ結ブ論
- ⑥ 國家士ヲ養ノ論
- ⑦ 風俗ヲ文明ニ導ク論
- ⑧ 萬國人民ノ論
- ⑨ 文章當世ニ震フ論
- ⑩ 雄學ブベキ論
- ⑪ 劉備孔明ヲ訪ノ論
- ⑫ 華盛頓ノ論
- ⑬ 那勃烈崙ノ論
- ⑭ 豐太閤ノ論
- ⑮ 曹孟德ノ論
- ⑯ 羅馬三傑ノ論
- ⑰ 文天祥ノ論
- ⑱ 電信氣ノ論
- ⑲ 書生鄉關ヲ出ル論
- ⑳ 韓文公ノ論
- ㉑ 蘇東坡ノ論
- ㉒ 俗ヲ化シ雅トナス論
- ㉓ 司馬德操ノ論
- ㉔ 人材撰舉ノ論
- ㉕ 西洋鉛筆ノ論
- ㉖ 教育進不進ノ論

- ①天下ノ大功ヲ成ス論
- ②學進才進ノ論
- ③金貨ノ論
- ④岳武穆王ノ論
- ⑤月輪ノ論
- ⑥光明ノ論
- ⑦潮汐ノ論
- ⑧小行星ノ論
- ⑨大象ノ論
- ⑩京風歌舞ヲ貴ブ論
- ⑪楠木ノ説
- ⑫演舌會ノ説
- ⑬一蹴英米ニ駕スル論
- ⑭天下ノ憂ニ先ツ論
- ⑮小官ニ沈滞スル論
- ⑯小學讀本ノ論
- ⑰風勢ノ論
- ⑱駱駝ノ論
- ⑲行星ノ論
- ⑳彗星ノ論
- ㉑捕鯨ノ論
- ㉒昇平業ヲ樂ム論
- ㉓一覺學ヲ勵ムノ説
- ㉔忍耐ノ説

- ①日本刀ノ説
- ②青年豪遊ノ説
- ③宋ノ子罕ノ説
- ④阿利斯ノ説
- ⑤孟軻ノ説
- ⑥小學生徒ノ説
- ⑦舜歷山ニ耕ス説
- ⑧春秋列國ノ説
- ⑨氷ヲ購フ説
- ⑩萬里長城ノ説
- ⑪洋學ノ説
- ⑫光陰惜ムベキ説
- ⑬息下讀書ノ説
- ⑭人種風俗ノ説
- ⑮保留ノ説
- ⑯舊曆ノ説
- ⑰游兒ノ説
- ⑱神農百草ヲ嘗ル説
- ⑲文王太公望ヲ訪説
- ㉑釋迦山ヲ出ルノ説
- ㉒小童携書ノ説
- ㉓太祖趙普ヲ訪フ説
- ㉔世界四大業ノ説
- ㉕勲章授與ノ説

⑤筆硯親ム可キ説

⑥民撰議院ノ説

⑦不二山ノ説

⑧教學ノ説

⑨師範校ノ説

⑩萬國政治大體ノ説

上閣作文用語卷之上

○文藝類

此門ニハ、學問、人物、詩文、書画、等ノ語句ヲ集ム、

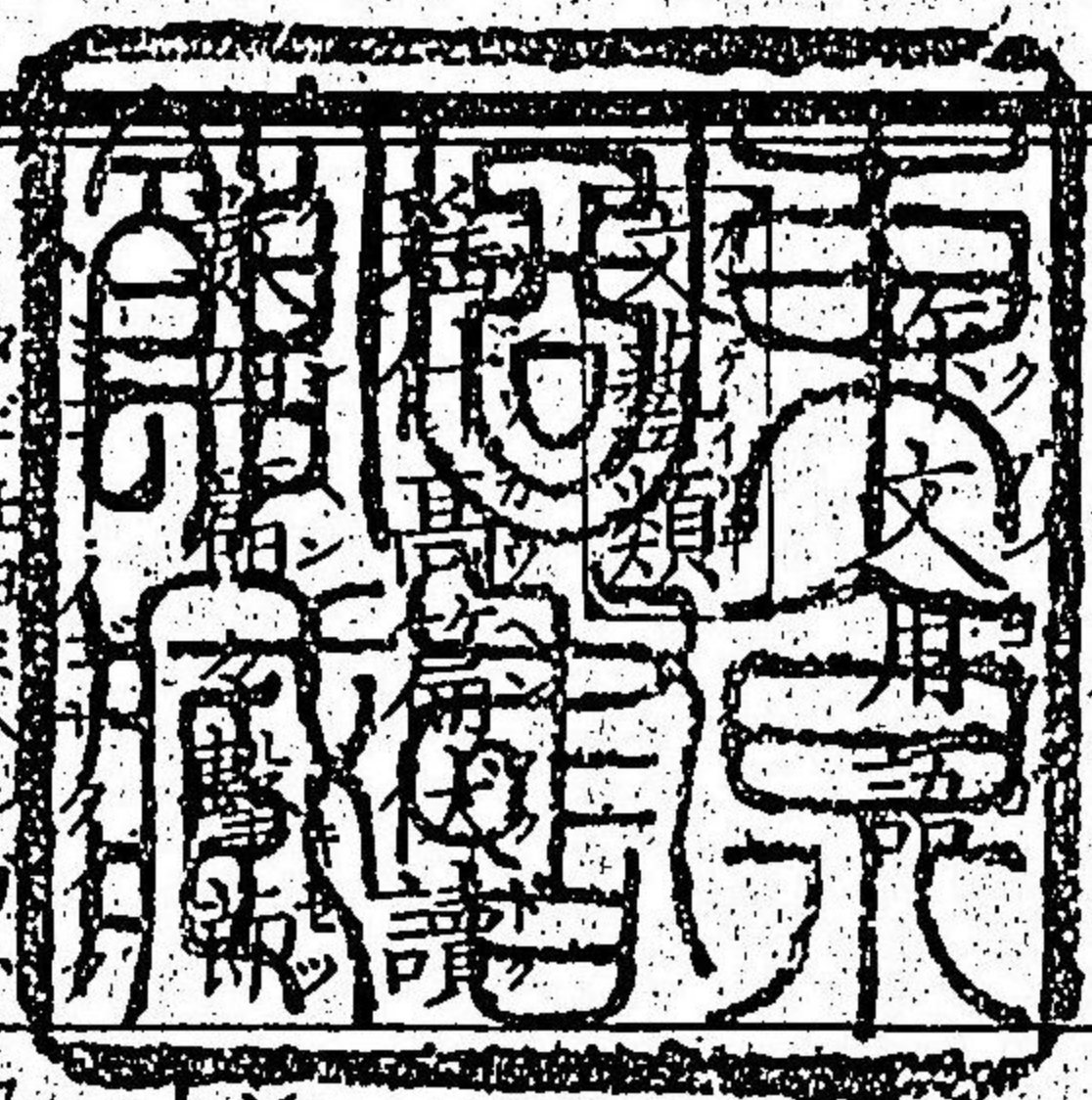
○叙言類

此門ニハ、存問、面會、起居、過訪、送別、遊覽、報答、拜謝、慶賀、褒譽、等ヲ集ム、

同卷之下

○論說類

此門ニハ、論策、題跋、序辭、議論、銘贊、等ノ語ヲ集ム



名家小學紀實文題卷之上

東奥 齋藤時泰著

①東京皇城ノ記

神州全國ノ首領ニ居リ。巍然トシテ高岡中

央ノ地ニ位シ。鬱々蒼々日月ニ懸リ。八州一

面伏テ遠近ニ連ナル。林巒翠ヲ萃メ。海若光

ヲ呈ス。誠ニ天府ノ皇京ナル哉。徳川氏天下

ニ覇タルヤ。大ニ土木ヲ起シ。水道ヲ開キ。丘

陵ヲ鑿シ。海ニ築キ。田ヲ埋メ。九陌万井都城

其辭瑰特雄麗

ブンシヨウガスグレ
テキレイニイキオヒ
ガアル

更ニ高作示及

ヲ辱フス。ベツダ
ゴトノゴサクヲオシ
メシナル

把テ之ヲ誦シ
鐙々鏗々タリ

ゴサクヲトツテ、
ヨメバヒキガ、ヨ
クキコヘル

辱ク佳稿ヲ惠
マル

ヨキ文シヨウ
ヲクダサレ、ア
リガタヘ

佳集絶唱ナリ

ヨヘシブンデメツ
ラシキケツカウナ、
ゴサクダ

玉詩ノ賜尚左

右ニ在ルガ如
シヨキシヲ、クダサレ、
オソバニオル心モ
チスル

古詩若于韻ヲ

綴リ案下ニ呈

コシソコバクヲツク
スルゴランニイレル

辭意ヲ盡シ難

シコトバガ心ノウチ
ヲツクシカネル

之ヲ展テ爛然

タリヒラケバヒカ
メバヨキヒビキノ
オトガスルヨウダ

風調道美殊ニ

朗誦スベシ
オンヤテウシガヨ
クテ、ヨミトナヘル
ニヨ

某書二本記室

壯麗以テ百萬ノ生靈ヲ治ス。地肥へ俗強ク
明治維新大號煥發茲ニ乾綱ヲ收メテ。以テ

天下ヲ總攬ス。盛ンナル哉。邦畿千里惟民ノ
止マル。沂穆々タル皇威苟ニ日ニ新タニシ

テ又日ニ新ナリ。神州ノ威武ヲシテ。宇内万
國ニ炫耀セシムルモ。亦以テ觀ルベキナリ。

吹上御庭ノ記

萬機ノ暇樓ヲ辭シ。殿ヲ下リ。玉帶毬馬以テ

聖慮ヲ慰ム。豈御苑無ラザランヤ。龍飛ヒ鳳

舞ヒ山川鍾靈ノ氣。奇花芳草ノ美。莓苔滑ラ

カニシテ。瑤砌拭フガ如ク。高岡ノ地。飛泉空

ニ漲リ。景象万千。郁々青々タリ。禁垣ノ裏。誰

カ又窺フヲ得ンヤ。是ニ於テ。

天皇其民ヲ憐ミ。時ニ閑テ以テ。衆庶ノ縱觀

ヲ許ス。而シテ。玉琴千丈空ヲ穿テ。瀉ギ碧澗

白練ヲ拭ルガ如シ。名ケテ吹上御苑ト云フ。

一拜遊覽其樂ミ洋々焉タリ。乃チ記ス

赤坂離宮ノ記

天子ハ。民ノ父母。天下ヲ帥キル。察セザルベ

カラズ。我カ。王回祿ノ災ニ係リ。

ニ貢ス フタツノ

厚惠ニ藉リ管 カウケイヨリ

窺ノ謂ヲ免ル カウケイヨリ

辱ク新刻ヲ示 カウケイヨリ

サ ゴシンセツニ

舊稿ヲ取り大 キウカウ

ニ芟洗ス サシセシ

勤檢皆畢リ織 カンケンミナオワ

ノ來使ニ附ス ライシニ

拙和一章ヲ呈 セツワ

ニ首ヲ奉和シ ニシユ

扇頭ニ寫ス セントウ

勉強ノ其一ヲ ベンキョウ

奉和ス請覽ヲ ホウワ

賜ヘ カキサシアゲマス

カキサシアゲマス ドウゾゴランナサ

皇居ヲ赤坂ニ遷シ。未タ新タニ土木ヲ起サ

ズ。國ヲ憂ヘ民ヲ憐ム。盛徳高大天下誰カ再

造ヲ願ハザラン。而シテ万国岨強海内多事省

察ノ要土木ニ非ズシテ。國家ヲ富スニ在リ。

詩ニ云フ。彼淇ノ澳ヲ瞻レバ。葦竹猗々タリ。

斐タル君子アリト。我カ王至徳至善此ノ

如シ國民タルモノ感奮興起邦ニ報ヒザル

可ケンヤ

華ヲ貴ビ美ヲ好ムハ。古今人情ノ常宮室ヲ

④ 學校新築ノ記

昇フシ。服食ヲ節シ。天下ヲ率ヒテ。儉素ニ實

踐セシムル。明天子賢宰相上之ヲ行ナヒ。

万億蒼生下之ニ化スルニ非レバ。能ハズ。而

シテ國家富强ノ元人智ヲ開クニ急ナリ。人

智ヲ開ク。學ヲ獎ムルニ切ナラザル可ラズ。

迺明治五年。詔勅ノ遠大ナル海内靡然方

川ノ海ニ歸スルカ如ク。土木ヲ起シ。黌門觀

美ノ盛ヲ致ス。古ヘ未タ有ラザル所。學ニ獎

教ニ赴ク。其豈盛且美ナラズヤ。然リ而シ

華ヲ貴ビ美ヲ好ムノ表。華粧飾ヲ去リ。斷々

クク

クク

クク

クク

祭ニ供ス可キ

ノミ呵々ヒニナ

ルヲイトハズオノ

ニカケマス

藝術ニ勉精ス

ガクヤワザニセイ

ヨダシマシヨウヨ

尚暇時ヲ俟テ

草呈スベシ

ゴエンリヨイタサ

ズシタガキヲサシ

アゲマシヨウ

高文領到ス稍

乎トシテ。儉素實踐ノ域ニ至ラハ。豈又好カ

ラスヤ。教育ノ任ニ在ルモノ。顧ミザルベク

ンヤ

⑤ 櫻田門ノ記

皇城西南ノ門ニシテ。屈曲御溝ニ添ヘ。潭畔

ノ松貞幹百尺三冬緑ヲ含ミ。以テ

皇居ヲ擁護ス。宛モ千兵劍ヲ按シテ。城堡ニ

掛ルガ如ク。森々翠蓋依然トシテ。霸居ノ風

アリ。維昔慷慨屠豹ノ猛士。白日刀ヲ提ゲ。劍

花雪ヲ染メテ。血痕淋漓一世ノ人心ヲ攪動

暇アラハ改上

スヘシ

カニウケトリマシ

タチトテスキアラ

ハサラニサラニサ

シアゲマシヤウ

詠誦批評ス

目ヲ杖ヒ神ヲ

凝ラシ首尾之

ヲ讀ム

ジメオハリヌヨク

ヨクヨム一ヲ云フ

佳稿ヲ示サル

姑ク留テ奉閲

シ。殺氣天下ニ亘リ。烈士壯夫ヲシテ。奮臂以

テ起タシムルノ端ヲ發ス。即此地ノ一擧ニ

アリ。過グルモノ誰カ感ナカラザランヤ。

⑥ 内務省ノ記

明治維新政正シク。人和シ。百廢具ニ興ル。乃

内務大藏兩省ヲ脩メテ。以テ天下ノ治ヲ張

ル。嗚呼盛ナル哉。倉廩府庫ノ高且大ナル。石

樓鐵閣儼然空ヲ凌ギ。天下ノ人ヲシテ。觸情

感極贊嘆止マザラシムルハ。蓋廟堂政畧。以

テ天下ヲ帥ルノ要ナリ。古語ニ曰ク。徳アレ

ス ヨイブンシヤウヲ
オクリクダサレト
メオイト、ハイケ
ンイタシマシヨウ

未夕細讀業ヲ
卒ルヲ得ズ
マダシマエマデ、ヨ
ミオハリマセヌ

展玩ノ間煙雲
幅ニ満ツ
ヒラヒテミルアヒ
タニクモキリヲミ
ルヨウミゴトダ

尚古ノ作者
フルキガクモンヲ
シツテルヒト
蓄微ノ露ヲ挹
ミ手ヲ澆ヒ乃

讀ム カウスイデキ
ヨメス、イデ
ヨミアゲル人ノ文
シヨウヲタツトブ

熟讀ノ丙夜ニ
至ルモ倦ズ
シロクヨンデ、ヨル
ノコ、ノツニナル
モイトハヌ

近作郵呈シテ
正ヲ請フコソゴ
クラ、ユウビンニテ、
サシアゲオナホシ
ヲネガフ、

改竄ヲ乞フ
シクオナホシヲ、ネ
ガヒマスル

足下寄ル所ノ

ハ此ニ人アリ。人アレバ此ニ土アリ。土アレ
バ此ニ財アリ。財アレバ此ニ用アリト今ヤ
各省官署森然羅列シ。大厦高堂壯麗大觀。以
テ天下ノ盛ヲ知ルニ足ル

七 勸工場ノ記

物ニ即テ理ヲ窮メハ。乃チ智識開ケザルナク。
藝業進マザルナシ。是ニ於テカ。政府巧ヲ勸
メ業ヲ励マシ。大ニ人作製造ヲ鼓舞ス。而ソ
工商百家争フテ其技ヲ磨シ。千品万器發明
日ニ新ナリ。局永樂町ニ在リ。苟モ藝業ニ志

スモノ。場ニ登テ之ヲ驗セハ。巧拙判々自ラ
發明スル所アラシ。嗚呼一人巧ヲ起シテ衆
和シ國應シ。以テ天下ヲ益スベシ

八 陸軍省ノ記

石門鐵閣見テ以テ膽ヲ壯ニスルハ。乃チ我大
日本帝國ノ永田街陸軍本省ニシテ。兵馬ノ
權歸スル所天下皆重尊瞻仰シテ。國威ヲ張
リ。國本ヲ堅ウスルヲ。是望マザルナシ。善哉
千軍ヲ山嶮ニ驅リ。萬馬ヲ平野ニ斃ス。雄武
ノ氣勢凜乎トシテ。四表ニ光被ス。他日宇内

書ヲ讀ミ芍藥

ヲ食ガ如ク快

甚シ

驪珠滿握照乘

ナラザルナシ

ヨイ天ヲエテヤカ

輪

遠逸老手ノ對

瑰偉特ニ麗ハ

辭米粲然タリ

ニ雄視スル。豈夫レ難カラシヤ

⑨ 印刷局紀吏

兵軍ヲ張リ。百寮ヲ盛ニスル。天下ノ富ヲ有

スルニ非ンバ能ハズ。此局ヤ常盤橋内ニ在

リ。全國財政ノ係ル所倉廩大ナラザルヲ得

ス。府庫饒カナラザルヲ得ズ。是ニ於テカ鐵

閣石樓壯大高麗ヲ極ハメ。巍然トシテ天畔

ニ冲ル。又以テ天下ノ富ヲ知ルニ足ル

⑩ 警視本署ノ記

府下百万ノ人口ヲシテ。其堵ニ安ンゼシム

固ヨリ雅人ノ

高致ト云フベシ

韻士之風趣高

人之雅致アリ

一二佳語未タ

曾テ見ザル所

籓中之集皆是

ルハ。是鍛冶橋内警視本署ノ中央廳ヲ開キ。

府下方面連絡環ノ如ク。非常ヲ警マシメ。不

虞ニ備ヘ人ヲシテ品行ヲ正シ。禮讓ヲ厚フ

シ。路捨タルヲ拾ハス。夜戸ヲ鎖サ。ラシム。

保護ノ要至レリ。盡セリ。然レドモ動モスレ

バ。凶徒劍ヲ提ゲ。盜兒跡ヲ絶ズ。警視ノ任モ

亦難ヒ哉

⑪ 八重洲河岸ノ記

龍口ノ水流レテ八重洲河畔ニ灑キ。諸候ノ

邸宅兩岸ニ在ルモノ。翠碧雲ノ如ク。水ニ臨

舊草稿 ハコノウ
チニア
ル

聊カ葑菲之命 ホウヒ
ノイ

ヲ塞ク ワツカニ
オ
マラヌ
フアン
シヨウ
マラヌ
フアン
シヨウ
マラヌ
フアン
シヨウ

命ニ遵ヒ此銘 シヨウ
ヒ
コノ
メ

ヲ撰ス請フ録 ラン
コト
ヲ

覽アラン オ、セ
ニツイ
テ、コ
ノ支ヲ
カキマ
シタ、
ゴラン
ク知サ
ヘ

漫成一絶 マン
ゼツ

奉覽ス ホウ
ラン
サク
ヲ
ゴラ

祇テ覆瓿ノ用 シ
ホク
ノ
用

供スルノミ マ
ツ

扇頭率雨ノ作 セン
トウ
ソウ
ツシ
ノ
サ

ニ係ル カ
イ
ソ
ガ
シ
ク
オ、
ギ
ニ
カ

愚撰ノ書若干 グ
セン
ノ
シ
ヨ
カ
ン

卷之ヲ鷄肋ニ クワン
ノ
ヲ
ケイ
ロク
ニ

匹ス ヒツ
ツ
マ
ラ
ヌ
ホ
ン
ユ
ヘ
ヤ
ク
ニ
タ

幸ニ之ヲ教正 キョウ
セイ

セヨ ド
ウ
ゾ
オ
ナ
ホ
シ
ク
ダ
サ
ヘ

之水ニ映シ。吟人騷客ヲシテ。景情止マザラシム。又名區ナル哉。

⑫ 東京鎮臺ノ記

劍戟林ノ如ク礮車山積戎衣ノ士軍門劍ヲ提ゲ。以テ京城ヲ鎮スルハ。乃有樂町東京鎮臺ノ營ニシテ。天下一朝變アレハ。即行テ之ヲ討ス。其軍ニ在ルヤ。号令嚴明肅然トシテ亂レズ。漢ノ細柳營。此鎮臺ニ比スレハ。兒戯ト云ハザルヲ得ズ。周亞夫李光弼ヲシテ。之ヲ見セシメハ。又應ニ髮ヲ揮テ喜ブベシ。真

二 天下ノ鎮臺ナル哉。

⑬ 尾張街新聞社記事

京橋以南街路整齊。建築極メテ壮大ナリ。石ヲ疊ミ樓ヲ重ネ。屹然萬屋ヲ下瞰シ。花樹喬木之カ経ヲナシ。鐵閣石樓之カ緯ヲナシ。四窓ノ玻璃彩色花ヲ敷ムキ。鮮明鏡ノ如ク。灼々トシテ人目ヲ炫耀ス。是乃府下五大新聞ノ一ニシテ。日報社名ヲ天下ニ擅ニス。盛ナリト云フベシ。

⑭ 電信中央局ノ記

其レ痛ク之ヲ
削セテレヨカリ

謹テ之ヲ録シ
テ呈ス

絶句數首聊鄙
懷ヲ述ブ

為メニ抹刪シ
テ拙ヲ藏クセ

削鋸已ニ施サ
バ亦价ニ附セ

以テ斧正ヲ祈
ル

新タニ家塾ヲ
起ス

仰テ來雅ニ酌
ヲク

空天線ヲ張リ。一瞬千里信ヲ絶域ニ通スル

造化ノ妙用人智採テ以テ之ヲ實用ス真ニ

絶世ノ良技ナル哉局木挽町ニ在リ。中央事

ヲ總べ。西州東海ノ邊波濤万里ノ域要ヲ報

ジ信ヲ達スル。豈此局ニ據ラサルヲ得ンヤ

⑤ 新橋鐵道局ノ記

局新橋ニ在リ。石閣巍然トシテ空ヲ凌キ。人

ヲシテ千里雄飛浩然ノ心ヲ起サシム。此局

ニシテ此業アリ。此業アリテ而ノ後國家ヲ

富シ。天下ヲ強フスルヲ知ル。其瀛發スルヤ

笛聲一鳴鐵輪忽ヲ轟キ。黒烟天ヲ蔽ヒ。京濱

十里。片瞬ノ間ニ達ス。而ノ其鐵路山ヲ崩シ

海ヲ埋メ。芝山袖浦ノ景武山玉水ノ美瓊

窓外歷々之ヲ觀ル。是乃車中ノ勝概ナリ。

⑥ 東名月ヲ踏ムノ記

錦繡林ヲ装ヒ。大圓ノ明鏡花間ニ懸ルカ如

ク。天此妍英ヲ假ス。逍遙徘徊奈何ゾ杖ヲ曳

カザラン。芳香衣ニ満テ。金衣公子。媚ビテ其

聲ヲ弄ス。詩料十分漫散領略歩々月ヲ踏ミ

行々花ヲ繞リ。醉テ而ノ歸ル又快ナル哉

フクビラノバシテオ
イデムレイヲイダス

車陋ヲ棄テズ

佳文ヲ示サル

ワタクシゴトキニ
ヨキブンシヨウヲ
シメサル

佳稿謹テ領ス

ヨキブンシヨウヲ
タシカニウケトル

手ニ其花ヲ弄

シロニ其詩ヲ

吟テズ
テニハナヲト
リクチニシヲ

問奇已ニ集ル

タツネルトコロガ
アツマリマス

近詩高作清絶

チカゴロノゴサク
イヅレモミゴトニ
ヨイ

點竄ヲ蒙ムリ

伏テ明惠ヲ拜

ス
オナオシクダサレ
アリガタイオカゲ

面ヲ待テ教ヲ

受ケン
オメニカ、
マハリマシヨウ

以テ便チ對筆

セン
全函价者

ニ負ハシメヨ

スグキヨウガウイ
タシマシヨウカラ

⑤ 橋場津頭螢ヲ觀ルノ記

晚風暑ヲ驅リ。柳邊ニ螢ヲ撲ツ。沈李浮瓜ノ

遊ビ。逸情誰カ又之ヲ辭セン。況ンヤ亭欄河

ニ褥シ。野ニ枕ス。扇ヲ開キ。恣ニ颼颼ヲ迎ヒ

清賞十分胸襟ヲ叙暢ス。歸ルニ臨ミ。熠燿路

ヲ繞ツテ飛ブ

⑥ 忍岡蓮ヲ賞スルノ記

亭々淨植媚ビテ芳萼麗質ヲ呈シ。淤泥ヨリ

出デ、淤泥ニ染マズ。香遠クシテ益清ク。花

近クシテ愈艶ナリ。水雲ノ郷清蓮ニ洗ヒ瓊

瑤ノ姿白羽ヲ飄ヘス。真ニ花ノ君子ト云フ

ベシ。誰レカ之ヲ賞セザラン。誰レカ之ヲ愛

セザラン

⑦ 道灌山杜鵑花ヲ見ルノ記

清鮮明美万山ヲ照ラシ。敢テ春時ノ千芳ト

艶ヲ争ハザルハ。乃杜鵑花ナリ。而シテ花色

紅アリ白アリ。班色アリ。満山火ノ如ク朱服

路ニ輝キ。一面種ヲ敷クニ似タリ。錦綺鏤爛

トシテ。獨リ勝景ヲ千山ニ擅ニス。君子モ亦

以テ之ヲ清賞ス。妖艶ノ態ナキヲ好ミスル

ホンバコヲノコラ
ズツカイノモノニ
オマハシクダサヘ
マセ

朝來宿酒昏倦
佳篇ヲ得テ忽
チ一洗スツカヨ
介ノトコロゴサク
ヌクダサレ、スダサ
メタリ

鉛槧之勤ム
カキモノヲヨクベ
ンキヨウイタス

三人輪會以テ
其書ヲ校ス
ニンヨリアフテホ
ンラシラベマシタ

尋テ且ニ淨寫
セントス
ヨラスルコト

醉中口占一首
ヲ馬ス
ヲウツス

吐布以聞シ伏
テ高教ヲ待ツ
ハキイタシテオメ
ニカケオ心ヅケテ
マツ

句々警拔字々
飛動ス
キツカリスル

豁然意解ケ鬱
シテ月ノ岬ト云フ

ナリ

③ 金澤文庫ノ記

物變リ星移リテ、六百ノ星霜依然トシテ、舊址ヲ存スルハ、乃御所カ谷阿彌陀院後ノ階頭ニ在ル。其古跡稱シテ、金澤文庫ト云フ。

④ 芝浦ノ記

天光一碧滿灣ノ春ニ媚ヒ、皓月千里萬頃ノ波ニ映ズ。林緑ニ水明カナリ。而シテ水十里。海光ノ清絶ナル。愛山縁嶽林樹ノ蒼鬱ナル。皆歛メテ芝濱ノ中ニ在リ。其海灣鐵輪ノ走ルヤ、長烟一空天捲キ地流ルガ如ク。烟景ノ美名状ス可ラズ。洵ニ勝概ニ誇ル宜ナル哉。

⑤ 三田濟海寺ノ記

三田聖坂ノ上ニ在リ。境内好景ニ富ミ、房総ノ群山一矚ノ中ニ歛メ、品灣ヲ眺メハ其景江面金波ヲ湧カスガ如ク。雅趣少カラズ。日眞淵ニ没シテ、漁火波ニ映シ。群峯發シテ緑陰深ク。風露爽カニシテ。氷雪潔シ。四時ニ觀ヲ改メ、風人詠賞ヲ擅ニスル。一勝地ナリ。稱シテ月ノ岬ト云フ

心忽消スカラリト心モ

チガトケテ、ウツキモ
モタチマナナクナル

學ヲ好ミ風裁ガクモ

アリガクモズキ
ガアル、

聲名ヲ以テ自ラシガ

高スナダカヒトコ
ロヲ以テジマ
ンスル

後進ノ領袖ナル

哉アトノヒトノ、テ
ホンデアル、

斐タル秀清ノ風シウセイ

アリアヤカル、スグレ
ヒデタル、アウ

儒學洽聞ナリ

ジユシヤ人ガクモ
ンガユキトヒヒテ
ヒロイ

學ヲ好ミ多聞

貧素ヲ以テ自立

スガクモンズキデ、オ
ホクモノシル、ヒン
キウヲイトハス、

富貴ハ讀書ヨリ

生シ幸福ハ勉強

ヨリ成ルトミ、シア
ハセハ、ホ
ンヲヨミ、ベンキヨ
ウスルヨリ、デキル
モノカ

經籍ヲ以テ常ニ

娛モツテトスケイシヨ
ノシミトイタス

⑤ 梅巖山ノ記

梅巖山ハ。其後ニ聳エ。玉川其前ヲ流レ。千峯

万岳四隣ニ連リ。風光宛然圖画ノ如ク。武州

西北ノ一都會ナリ。吾此境ニ到リ。吟懷詩情

勃々トシテ起リ。三四ノ句又以テ其景ヲ知

ルニ足ル

⑥ 鶴岡神社ノ記

老櫻古梅依然トシテ鎌府ノ春ヲ領シ。鶴岡

廟前一拜シテ階ヲ下リ。源右府霸府ノ址ヲ

想ヒ。感慨四集低徊シテ去ルニ忍ビズ。今日

宇内駭然ノ勢頼朝ヲシテ。九泉ノ下ヨリ起

シ。以テ之ヲ見セシメハ。豈又快ナラズヤ

⑦ 稻村寄ノ記

怒濤山ノ如ク忽チ來リテ忽チ去リ。鎌府咽

喉ノ地ニシテ。險要無比一士之ヲ守レバ。万

夫モ過クル能ハズ。宜ナリ新田氏ノ金刀一

擲國賊ノ勢ヲ挫ク。天時地理ヲ知ルニ非ン

バ。何ゾ夫レ此ノ如クナラン

⑧ 鎌倉大佛ノ記

鎌倉ヲ距ル里余長谷觀音ノ北ニアリ。四邊

オヲ負ヒヒ鬱々志ヲ得ズキリヨウア
トリシテオモフ心ザシヌトゲエス
生テハ封侯ニ當ルベシイキテイ
ソクトモナレ
死ノハ當ニ廟食スベシ
ハクニノタメニマツラレルホ
ドハテガラヲタテ
ルビシ
閑居以テ志ヲ養
可シシツカニクテ
詩書以テ自ラ

皆山洞然タル一境ニシテ大佛空ヲ凌ギ風
雨ニ曝露シ徳ナク功ナク天下ノ贅物此ヲ
過クルモノ。唾シテ以テ其愚ヲ笑フ。又無用
ノ長物誰ガ秦ノ翁仲ノ者ヲナスヤ。
① 關原古戰場ノ記
兵刃ヲ曠野ニ交エ。一戰石賊ヲ擒ニシテ。三
百至治ノ基ヲ開クハ。徳川公天下ヲ定ムル
ノ畧其時機ヲ失ハザルヲ以テナリ。淡窓句
アリ。笑例ス風前天竺ノ花ト。此ヲ過クルモ
ノ誰カ感ナカラシ

樂ムニ足ルシツク
リシヨヲヨミジブ
ンテタノシミトス
男子當ニ雄飛
スベシ安ゾ雌
伏センヲトコタル
モノハ大ヒ
ナルギヨウヲタテ
ツマラヌコトハド
ウシテスルモノカ
少フノ英佛ノ
書ヲ讀ムワカヘ
ギリス、フランス、
ホンヲヨミヒトニ
スグレテワケニシ
市傍ニ舍スレハ
遊戯乃賈人術

① 桶峽ノ記
鳴海驛ノ東里余岡阜陂陁其間号シテ桶峽
ト云フ今川義元戰死ノ所碑アリ榛莽ノ墟
ニ立ツ。嗟呼公父祖ノ業ヲ受ケ。富岳ヲ踐テ
壘トナシ。天龍ヲ隍トナシ。美ナル哉山河ノ
固メ偉ナル哉霸王ノ基而ノ長槍大劍壯馬
強兵一敗シテ空シク死ス。山河寂莫誰カ之
ヲ慰セント。是拙堂曾テ公ヲ吊スルノ文ニ
シテ。能ク此地ノ況ヲ寫スト云フベシ
② 姉川古戰場ノ記

賣ノ更ノミマチ
タハラニスマヘス
レバアソビゴトモ
ミナアキナヒムマ
ネバカリ

校隣ニ舍スレバ

遊戯必ズ學問

ノ更ノミ
ウハキ
ンジヨニスマヘス
レバミナガクモン
ノマネバカリスル
モノカ

聴識ニオ辨ア

君ハ常ニ雅人ノ

深致アリ

フカンニ、フウガナ
ルヒトノ、ヨウスブ
リガアル

博學洽聞文筆

ヲ以テ著稱セ

ラル

尺牘論議ニ善

シ

之ヲ箴シ之ヲ

賜スレバ糠粃

前ニ在リ

タリスルトヌカハ

マヘニトアヨウニ

ヨキモノヲトリ、ワ

ルキモノヲステル

織田徳川ニ公短兵能ク勁敵ヲ挫キ一戦技
倆ヲ天下ニ顯ハスハ。乃此地ノ激戦遂ニ雄
飛ノ勢ヲ成スナリ。川流奔端今尚餘勢ヲ残

ス

③箱館戦争ノ記

濠洲ノ如ク。傑士勇卒一方ニ據リ。以テ天

下ヲ争ワントス。而ノ天兵一舉大激戦ヲ開

キ。五稜郭外戦雲血雨ヲ飛ハシ。賊軍砲碎ケ

艦破レテ。遂ニ王朝ニ歸ス之ヲ箱館戦争ト

云フ

④能州七尾ノ記

大灣深ク陸地ニ入り。灣内島アリ。能登島ト

云フ。古ヘ蓋世ノ英雄一詠ヲ試ミ。風景今尚

光リヲ生ズ。宜ベナル哉。百世ノ下人ヲシテ

越山能州ノ景ヲ慕ハシムル。

⑤清見瀉ノ記

人丸曾テ。千古ノ詠ヲ残セシ。田子浦畔ニ連

ナル。一灣ニシテ。北ニ薩陀嶺アリ。南ニ三保

ノ松原アリ。富山儼然迎フカ如ク。久能ノ山

色笑テ其美景ニ誇ル。而メ白沙青松海面ニ

世皆明識ニ伏

スヨノナカノヒトハ
ミナケンシキノタ
カキニフクスル

星曆算數該覽

ナラザルナシ
テンモンヤサンス
ウニイチノクハ
シクアル

意儒雅ニ在リ

コ、ロハジユシヤ
ノミチニ、ハマリコム

藻思日ニ新ナリ

ア、ンサイノアルコ
トハヒツニアラタ
ニナル

情ヲ文章ニ留ム

コ、ロヲブンシヨ
ウノミチニイレル

清貞ニ遠操ア

リケツバケニメタカ
キシサイガアル

切ヲ立テ言ヲ立

ルヲ敷幾スベシ
テガラヲタテタリ
コトバヲタテルハ
ノゾムトコロ

興廢ノ道ニ明

カナリヨノオコリ
ワシクアル

刑閱之命ズ何
一辭ヲ賛セシ
ナオンカタヲオ、
セツケラレ、一ツモ
タスケラレヌ

斗出シ。駿州第一好景ノ地ナリ

⑤ 熱海温泉ノ記

地相州洋ニ臨ミ。海水灣ヲナシ。風色佳景天

下有名ノ浴場ナリ。川名崎其南ニ斗出シ。日

金山其後ニ在リ。鑛泉病ニ宜シク。地景詠ニ

富ム。宜ナリ近來高貴縉紳争テ至リ。瑞雲祥

氣ノ鬱然タル

⑤ 甲州猿橋ノ記

巖壑千仞飛泉ヲ迸ラシ。兩岸一帶長橋ヲ架

ス。是即チ猿橋ニシテ。恰モ米州尼亞加拉ノ

濠布鐵造ノ飛橋ニ彷彿タリ

⑤ 平安城ノ記

山河襟帶天府ノ地ニシテ。西ニ嵐山ノ勝ア

リ。東ニ東山祇園清水寺ノ公園アリ。山水明

媚風色ノ美天下ニ最タリ。而メ規模宏大道

路洞通依然トシテ舊規ヲ殘シ。人ヲシテ敬

尊ノ意ヲ起サシム

⑤ 芳山ノ記

海内無雙絶景絶色ノ地ニシテ。南朝三世五

十四年ノ行在所タリ。山ハ水ニ映ジ。水ハ山

下問ニ因テ少ク
鄙見ヲ陳ブオタ
ニツイテミコシラ
イサ、カマウシア
ゲマスル、

少間試ミニ展
階ス スコシノヒマ
ニヒラキミル
讀テ驚鷓錯愕
云フ所ヲ知ラス
ヨシデオドロキイ
リマウシゲルコト
ハデキヌ

未タ門奇ノ列
ニ厠ラズイマ
ノナミニクワ、リ
ハイタサヌコト

性易良氣度冲
雅誠ニ道ヲ好
ムノ人ナリ
レツキ、ヤハラカデ
キドリガシンジツ
一タビシイヒトダ
明哲仁恕好學
自ラ脩ム サトク
アリテ、カクモンヲ
スキカ

俗務ヲ祛徐シ
潜心カ學人ク
ムヲハラヒテ、セイ
ヲカシカクモンヲ
イタス

一讀ノ喜快限

媚ビ樹トシテ櫻ナラザルナク。櫻トシテ
艶ナラザルナシ。洵ニ天造ノ美景ト云フ可
シ

⑤ 金剛山ノ記

河州ノ東南隅ニ峙チ。巒然天ヲ凌ギ。山脈左
右ニ別レ。聯翩斷續。万山千峯ヲ擁ス。英雄起
ル所。山亦凡ナラサルナリ。

⑥ 須摩浦ノ記

千載佳稱ヲ恣ニシ。風光人ニ媚ブルノ地ニ
シテ。高人風客咏嘯嘖々然。今ニ傳フル所ノ

モノハ。乃海光水色。白沙青松ノ。美景アルヲ
以テナリ

⑦ 目黒不動ノ記

靈雲山蟠龍寺ノ西。百歩ノ外ニ在リ。林木鬱
然蕭森トシテ。古刹ノ地タリ。大同三年。創建
スル所。都下ヲ離ル、村落ト雖。念ハチ。日詣

人絡繹トシテ絶ヘス。而ノ飛泉布ヲ晒スカ
如ク。早天尚涸レズ。納涼ノ客争テ至ル。又靈
境ナル哉。

⑧ 千代寄ノ記

リナシニトタビヨ
ニデヨロコ
ヒタツクサン

更ニ粉飾ヲ加
ヘヨ
ベツカニニカ
ンガヘナホシ
ヲナサハ

石刻良ニ珍玩
タリ
イニズリハホ
ンガマコトニ
メツラシイ

好莫ノ深篤ヲ
見ルニ足ル
モ
スキノアツキコ
ロヲシヨウチイタ
シマス

烏絲欄ヲ以テ
一詩ヲ録ス
イケ

ガミニヒトツノシ
ヌシルシマス
新詩欽誦手ヲ
釈カズメツラシキ
ヲハナサヌ

藻豊論博鬱然
目ニ満ツイモヨ
クギロンモヒロク
メイツパイ
述作ノ妙揚班
ヲ欺クハヨイコト
ハヤウイウハニコ
ニマサル

筆力勁駿心手
相應ス
フデサキガ
タツシヤダ
シツカリシテ心モ
ナモシユセキモミ

合抱ノ樹參差天ヲ蓋ヒ。窈冥トシテ晝暗ク
竹樹蕭蕭ノ間飛泉アリ。直下丈餘恰モ白練
ヲ曳クガ如シ。而ノ富岳ヲ雲際ニ望ミ。遠近
諸勝争テ奇ヲ下ニ呈ス。潭ノ南松蓋千尺黛
色天ニ接ス。之ヲ掛衣ノ松ト云フ。維昔新田
氏ノ婦人千代子ナルモノ矢口ノ變ヲ聞キ。
兵ヲ率ヒテ。自ラ赴キ。悲悼禁セズ。敷衣ヲ脱
シテ。之ニ掛ケ。潭ニ投ジテ。死スルノ地ナリ。
故ニ千代寄ト云フ

〔聖〕堀内妙法寺ノ記

堂宇壯嚴ヲ窮メ。香花常ニ絶エズ。忌日群參
ノ人織ルガ如ク。村烟風光春ニ好ク。秋ニ宜
シ。元和年中。日蓮ヲ祭リ。爾來信仰益甚シク
京人多ク之ニ詣ス。何ハ此地ノ幸ナルヤ

〔聖〕淀橋ノ記

成子中野ノ間ニ架シ。水玉川ノ流レヲ汲ミ。
潭涵渟滄。其色碧玉ノ如シ。橋欄画クガ如ク。
橋畔ノ亭客ヲシテ。躊躇去ル能ハザラシム。
水情ヲ寄セ。石媚ヲ呈ス。淀橋ノ名空シカラ
ザルナリ

ゴトデアアル

銀鈎鐵畫龍蛇

婉然ヒガヒツボウ

ヨク、リヤウヤ、ジヤ
ハウゴクヤウニ、ミ
ヘル

筆勢翩翩々伯英

ノ風アリ

サマシキフウハ、ミ
ヨウハクエイ、人、カ
イタヨウ外

臨池ニエミナリ

シヨヲカクコトニ、
ヨホドタツシヤデ
アル

布置結構點撥

渲染精神ヲ此

池上本門寺ノ記

甲斐ノ身延下總中山本山ヲ合セ。日蓮宗三

山ノ一ニシテ。弘安四年創立スル所堂塔高

ク。丘上ニ聳エ老杉古松森々林ヲナシ。空ヲ

凌ギ海ヲ隔ル。數里ト雖モ。舟人イテ望標ト

爲ス。池上村ニ在リ。長榮山大國院ト号ス

武藏野原ノ記

玉河墨水諸川ニ連ナリ。大嶽秩父ノ山麓ヲ

限リテ。十郡ニ跨リ。曠野眇茫千里限リナシ。

所謂草ヨリ出テ。草ニ入ルノ句イテ其曠漠

ニ用ユ

品韻長

傳ル

心氣寫

恰毛蘭竹

恥カシム

兜起鷲落ノ風

アリ

ルヨウス

ヲ知ルベキナリ。今ヤ開拓シテ。村アリ田ア

リ。郊アリ林アリ。狭山ニ登リテ。之ヲ見レハ

一望千里以テ古ヲ想像スルニ足ル

北上川ノ夏夕記

萬川ヲ合シ。千山ヲ貫キ。盛岡以南陸前ニ至

ル。其間山水妍秀歷々トシテ。天造ノ景ヲ恣

ニシ。谿谷嶄巖大石相倚リ。奔流百里。三國ニ

連ナル。而シテ磐井郡中薄衣渡口ノ如キ。東

山咽喉ノ地。山緑水明カニシテ。諸峯皆襟帶

ニ在リ。水利ノ便物産ノ富。以テ天下ニ冠タ

楷法端巖ナリ

ヨイシヨノホウガ
タシクシツカリ
シテイル

氣格渾樸ナリ

キフウガ、シツカデ
オトナシクミヘル

雲烟飛動シテ

姿態横生ス

ウシヨヤソウシヨ
ハヨウスガクモケ
ムリハデキルヤウ

紅箋素絹ノ上

ニ振フ トウシヤ
ヘニカク

淡々筆ヲ着ケ

リ

〔罍〕 狭山ノ池ノ記

京ヲ離ル、十里多摩郡村ノ一ニシテ。茗産
ノ美。天下ニ高ク。池畔ノ光景山水ノ勝アリ。

吾官巡一過此地ニ至リ。吟意勃然トシテ起

ル。勝ヲ探ル者争フテ到ル。宜ナル哉

〔罍〕 梅柳山木母寺ノ記

半村ノ楊柳半村ノ花。花ハ櫻桃ノ艶ヲ恣ニ
シ。楊柳ハ隅田河畔ノ水ニ映シ。木母寺ノ邊
風光最モ好ク。酒樓三四遊賞ノ客ヲ迎フ。又

佳境タリ

〔罍〕 松島ノ記

富山扇溪海灣ニ連ナリ。前ニハ寒風澤唐名

花淵寺ノ洲渚アリ。海水灣ヲナシ。群島三百

嶼トシテ。松ナラサルナク。松トシテ奇ナラ

ザルナシ。造化別ニ天工ヲ開クト云フベシ。

實ニ神州無雙ノ名勝過クル者何ッ感ナカ

ラガラン

〔罍〕 飛鳥山ノ記

春花秋草夏涼冬雪其詠メ盡キズ。高岡ノ地。

アツサリトフデヲ
ソメテエヲカク

鋒穎雄恣ニシ

テ神韻活動ス

ルガ如シ

標格清高ナリ

草書淡畫氣象

勃々タリ

玉蘭采蘋ノ風

カタチガ、キシヨウ
ヲフルヒダス

タマノランヤ、ウツ
クシキクサノヨウ
ニミヘルエダ

雲吐き烟吞ミ
龍躍り蛟舞フ

クモケムリガアラ
ハレリヨウヤ、ミツ
チノオドリテマウ
ニニタルコト
氣宇融和精神
洒落タリ

詩書酒ヲ思ヒ
筆藻花ヲ夢ム

シヲツクリ、シヨヲ
カクニハ、サケガヨ
クフデサキガハナ
ノヨウニ、ウツクシ
千古ノ書ヲ讀

ミ天下ノ士ヲ

友トス
紙盡ク
書ヲ閱スレハ百

筆ヲ落セバ四

坐驚ク
文酒ノ趣常ニ
消セズ

ツテ、タノシミトス
ルコトハ、フ、カン

櫻林老松佳色ヲ恣ニシ。山ハ水ヲ挾ミ。水ハ

山ヲ擁シ。鶯鶻風ニ媚ヒ。騷人墨客勾ヲ摘ミ

章ヲ尋子。勝情極リナキヲ覺フ。宜ナル哉。花

飛鳥ノ芳林ニ笑ヒ。水音無川ノ流レヲ清フ

シ。隣景遠色眼界豁然豁山ヲ呈露ス。誰レカ

一觸一詠ヲ惜マン。游觀亦以テ鬱ヲ散ズル

ニ足ル。此境ニ遊ブ毎ニ風景ノ奇且新ナル

ヲ知ル

〔平〕 駒籠花園ノ記

春ハ百艷ヲ造リ。秋ハ蘭菊ヲ栽エ。四時索馳

ノ業以テ宇内ノ園木花樹ヲ培養シ。公園公

館諸侯邸宅ノ求メニ應ズル。種樹家最モ多

ク。風人騷客跡ヲ絶タザルニ至ルハ。是梅檀

谷地方ノ富ナリ

〔平〕 東叡山ノ記

春光眼ニ満チ。芳艷階ニ飄リ。風月晴和ノ候

高人韻士車ヲ馳セ馬ヲ驅リ。香烟簇々ノ中

金閣輪奐ノ美人目ヲ輝カシ。老櫻古松芳雲

香霧ノ間ニ隱見タリ。此時ヤ。花ニ酔ヒ霞ニ

戲レ管絃聲涌キ。以テ太平ヲ戴ク。誠ニ萬民

書ヲ讀ムハ貪
裏ノ樂ムハマツ

句ヲ搜ルハ静
中ノ忙ツネサグ

書画一揮スレハ
百態變出ス

青蠶糸ヲ曳クニ
似タリカイコノイ

偕樂ノ公園ト云フベシ

⑤ 金龍山ノ記

日域無雙敏昌ノ靈區ニシテ。殿堂門廡輪奐
日ニ輝キ。五層ノ塔空ニ聳エテ。山門傍ニ屹
立シ。賽客絡繹紅粧花ヲ欺キ。金鈴玉磬響朝
夕絶ス。境内觀場アリ。演劇アリ。茶店アリ。園
林アリ。千店万舗一トシテ備ラザルナシ。實
ニ繁華ノ靈地ナル哉

⑥ 兩國橋ノ記

古ヘ二州ノ國界ナルヲ以テ。橋ニ名クルニ

六書八體變化
妙一目婉然

筆流レテ紙飛
藻艷無比

千變万奇一腕
間ニ生ズ

サマノフウガ
トイフコト

兩國ヲ以テス。人士輻湊商賈繁華兩岸ノ風

景画クガ如ク。其橋長サ九十六間。夏天納涼

ノ夜。万船川ヲ埋メテ。忽チ大陸ヲ生ジ。燈火

星ノ如ク。炳焉天ヲ燬ガス。而ノ金丸中天ニ

舞ヒ。烟火雲間ニ送ル。時數万ノ群客。舳ヲ叩

ヒテ。山呼声湧キ。恰モ曹孟德赤壁ノ戰ヲミ

ルガ如シ

⑦ 龜井戸卧龍梅ノ記

白雲龍ヲ包ム。梅花ノ句。其角ナラズンバ。其
誰レカ能ク之ヲ云ン。此地老梅園中四邊

山面ヲ粧ヒ林

衣ヲ被ムルニ

似タリ

冠ヲ正シ容ヲ

改テ見ル

叙言類

懷念高深戀慕

誠ニ切ナリ

能ハズ

久シク清光ヲ

挹ズ

渴望殊ニ切ナ

リ暫ク函丈ニ

違フ

絶テ絳帳ニ侍

セズ

モ、ワスラレヌ

蘊結ノ情一見

ニ非レバ解ク

能ハズ

久シク清光ヲ

挹ズ

渴望殊ニ切ナ

リ暫ク函丈ニ

違フ

偶田河堤ノ記

蔓リ梢高カラス枝垂レテ地ニ入リ屈曲
蟠壇自ラ其勢ヲ顯ハシ恰モ龍ノ蟠卧スル
ニ似タリ其花重瓣清白數里ノ間薰香鼻ヲ
衝ク春時風騷ノ人絡繹織ルガ如シ真ニ名
區ナル哉

花水ヲ挾ンデ而シテ奇ナリ水花ヲ得テ而
シテ麗宜ナル哉天下ノ絶勝トナス長堤十
里両辺皆櫻花時紅白枝ヲ交ヘ河水翠ヲ凝
ラシテ清絶拭フガ如ク西芙蓉ノ仰ギ東波

山ヲ瞻夕陽ノ下落霞飛鳧垂柳疎松ノ間ニ

閃々タリ風趣幽艶人ヲシテ愛賞止マザラ

シム芳山ノ花亦之ト趣ヲ同フスベシ天下

ノ絶勝ニシテ京城ノ下ニ在ル天此美景ヲ

假シ水花其風烟ヲ恣ニスト云フベシ

九段招魂社ノ記

聳然高岡ノ地ニ立チ靈氣天ニ冲リ人ヲシ
テ肅然敬拜ノ念ヲ起サシムルハ九段招魂
ノ堂ニシテ西戰東征王事ニ斃レ勇將傑士
ノ魂九原ニ在ルモノ飛舞神堂ニ集マリ長

面セザル踰月

オメニカ、ラヌコトハ、ヒトツキホド

缺然久シ一日

三秋ノ思アリ

オタヨリヲカキ、一日三年モタツオモヒスル

指ヲ屈スレバ

晤言一年ノ外

ニ在リカヅヘテミカ、ツタノハ一年

モサキ

伏テ曠遠スルヲ

想フ茲ニ三年

ゴソエンナルヲオ

モフテ、ヲルコト三

靚面スルニ縁

ナシ オメニカ、ル

ガナイ

問聞關然勞心

切怛ナリ

タヘテオリ、キガイ

タシテ、イロ、イオモ

離離數日年載

ヲ彌ルガ如シ

ツテイルコト、六七

日デモ、トシヲコシ

私懷悵惘タリ

ワタシノ心、イタ

皇基ヲ護ス其祠前園庭拭フガ如ク玉

琴空ニ漚ギ竹樹緑ヲ添ヘテ以テ祭時ノ光

景ヲ増ス海陸軍官遽ニ祭主トナリ當日朔

火競馬ノ技ヲ演ス誠ニ盛典ナル哉

竹橋兵營ノ記

貌貅ノ士虎賁ノ勇壯精絶倫神國ノ干城タ

ル近衛親軍ノ兵營ニシテ竹橋門内ノ高丘

ニ立チ鐵門石閣城堡堅固ナルコト天下ニ

類ナシ而ノ堅ヲ破リ銳ヲ挫キ氣勢常ニ百

萬ノ軍ヲ吞ム雄ナル哉

學習院ノ記

泰山ハ土壤ヲ讓ラス江河ハ細流ヲ捨ズ故

ニ其廣大ヲナス此技ヤ衆華族ノカヲ合セ

天下ノ富ヲ舉ゲ以テ壯麗ノ美ヲ成シ

天王辱ク之ニ幸シ賜フニ學習院ノ号ヲ以

テス榮ト云ハザル可シヤ巍々タル哉此技

砲兵本廠ノ記

術精々技明カニ軍器兵仗一トシテ備ラザ

ルナク古ヘ弓箭ヲ以テスル如キニ非ス攻

城野戰堅ヲ碎キ銳ヲ破ブル砲丸ニ非レバ

一日トノ前好
ヲ忘ル・コトナシ

イチニ下デモ、マヘ
ノツキアヘ、ヨシミ
ヲワスレタハナヘ

分袂ヲ想フニ

衷葛幾カ更ル

ワカレテヨリ、フユ
ナツガ、タビクカハル

袂ヲ解テ以來

寒暑存ニ更ル

オカレシテヨリ、サ
ムサアツサガハル

情心懸戀ニ任

ルナシ
ナツカシサ
ガタヘラレ

何ヲ以テ能ク堂々ノ旗整々ノ陣ヲ突クコ

トヲ得ンヤ。本廠ハ小石川ニ在リ。大ニ製作

ヲ盛ニシ。以テ海陸軍ノ用供ニ充ツ。大ナル

哉其業

横須賀造船場ノ記

天下ヲ雄視シ。宇内ヲ睥睨スルハ。一方ニ據

ル可ラズ。大ニ海軍ヲ張り。以テ万邦ヲ呑ム

ニ在リ。我國東洋ノ一島洲ニシテ。其勢ヒ海

軍ヲ張ラザルヲ得ズ。即地ヲ横須賀ニ相シ。

大工業以テ艦ヲ造ル。此場ヤ。黒烟常ニ天ヲ

掩ヒ。鐵器ノ響万雷ノ如シ。盛ナル哉

女子師範學校ノ記

家法整脩ナレバ。教養ノ道明カニ。教養盛ナ

レハ。人智發育日ニ新タナリ。明治八年。女子

師範校ヲ開キ。以テ婦人教養ノ道ヲ盛ニス。

其經營結構善ヲ盡シ美ヲ盡シ。培養既ニ成

リ。女教ノ美果ヲシテ。全國ニ蕃結セシメン

トス。天下ノ婦女操行端正智識明開遂ニ子

弟ヲシテ。長進發達セシムルモ。亦以テ見ル

ベキナリ。

一別杳然深ク

鄙懐ニ關スワード

レテヨリ、バルカニ
ヘカツヨウズ心ニ
ワスレヌ

日ニ清光ヲ瞻

企ス
マイニチ、アナ
タヲオモヒノ
カムハカリ

芝顏ヲ懷想ス

アナタニハヤク、オ
メニカ、リタヘ

夢寐ノ間忘ル

能ハズ
ユメノマモ
アナタヲ、ハ
スラレヌ

仰止ノ情日與ニ

仰止ノ情日與ニ

積△ オモフ心が一
日トソムハ
カリ

鬱湮ノ氣結テ
鮮ズ トツカシヘ、コ
リテトケヌ

徒ニ翹跂ヲ増ス
タビニオモヘ、ソ
ムバカリデアアル

徒ニ望河ノ想
ニ切ナリ ナツカ
アイタヘコトヲ、オ
モフバカリカ

神ヲ注ギ想ヲ
馳ス コ、ローハイ
ウテイル

積烟訴へ難シ
ツモルオモヒヲ、マ
ウシアゲルヒマガ
ナイ

相思ノ二字常
ニ留間ニ在リ
アヒオモフノネン
ガフカシニムネヲ
ハナレヌ

分襟來流年矢
ノ如シワカレテヨ
ハヤノゴトクハヤ
イ

我ニ示スニ雙
魚ヲ吝ム勿レ
ワタクシニテガミ
ヲク知サルヲオシ

空日暮里畔ノ記

春日永キヲ覺ヘズ。吟客騷人遊觀ヲ恣ニス
ルハ、乃此日暮里畔ノ景ニシテ。鳥媚ビ花笑
ヒ。烟霞ノ候楓葉ノ天。四時以テ佳ナラザル
ナシ。真ニ人ヲシテ。樂ンデ返ルコトヲ忘レ

シムルノ地ナリ。書生勤學ノ餘。散策漫歩以
テ心氣ヲ養フニ好シ

津頭首ヲ回ラセバ。波山烟雲ノ間ニ縹渺タ
リ。是乃橋場渡口ノ景ニシテ。夏時暑ヲ避ク

空橋場津渡ノ記

ルノ客游舫万千。水光潑艶トシテ。岸柳ニ映
ジ輕條水ヲ出テ白鷗翼ヲ洗ヒ。涼意最モ人
ニ可ナリ。而シテ好觀美景誰カ嘯咏ヲ恣ニ
セザラン

空三圍神社ノ記

風景依稀トシテ。恰モ圖画ヲ見ルカ如ク。墨
水堤外小梅ノ村ニ在リ。櫻桃竹樹瀟灑愛ス
バン。文人騷客石ニ銘シ。額ニ題シテ以テ其
情ヲ寄ス。

空白鬚神祠ノ記

紀
卷ノ上

三十四

相去ル千里人ヲ

ノ惆々タラシム

トホクヘタツテオ
ムバウセントスル
ヤウカ、

千里遼絶素居

ニ堪ヘズ

トホクハ
ナレテサ
ビシサニタヘラレ

芝顏ニ遠違シ

遙々千里

オホメニ
カ、ラ
ズハナレテオトルコ
ト、バルト、ト、ホイ

何ノ日重テ名

範ヲ見ルヲ得

墨水堤畔依然タル一社猿田彦ヲ祭ル所ニ

シテ風物勝景ノ美神モ亦以テ靈ヲ安ンズ

ベシ。默禱一拜壯氣頓ニ快ヲ覺ユ

⑤ 大學醫學部ノ記

性命ノ理ヲ論ジ。化學ノ巧ヲ借リ衛養ノ方

ヲ極メ。以テ疾病ノ變ニ處シ。頼テ以テ其天

賦ヲ全フスル。濟生ノ學ニシテ。其事ヲ理シ。

其法ヲ行フ。學博ク理精シカラザルヲ得ズ。

善ヒ哉。此校ノ大ナル本郷高岡ノ地ニ立チ。

東嶺ヲ銜ミ。忍岡ヲ呑ム。而ノ時錶高ク閣上

ニ懸リ。遠近坐ガラ其時ヲ知ル。生徒時ヲ惜

ミ。學ヲ勤ムル便ナル哉。

⑥ 品江臺ノ記

東海道ノ首驛ニシテ。前ニハ品海ノ明色ヲ

望ミ。後ハ緑野曠衍鐵道其間ニ通ジ。丘陵出

没田アリ叢アリ。春時菜花麥綠ノ景紅桃李

白ノ美苑モ画クガ如シ。而ノ驛街店舖鱗次

シ。百貨盡ク備ハル。其洲寄ハ海中ニ突出シ。

漁家連續海苔ノ名産天下ニ顯ハル

⑦ 川寄大師堂ノ記

一見濶情ヲ叙

イチドオメニカ、
ツテナツカシヒ心
ヲノベヨウ

愁懷悵結何ノ

イツノヒ、マタオメ
ニカ、ルカシレヌ

日之ヲ散ゼン

ウレイ、ムスボウル
心ガイツノロトケ
ヨウゾ

僕足下ニ神交

ボクソクカ
シシカウ

スル久シ

ワタク
シアチ
タト、フカキマジハ
リヲスルコトフル
イ

朝ニ堂ニ燕笑

シタニ各天ニ

塊若タリ

ハトホクハナレテ

カクチニオモヒマ

コトハタント

面ノハ逸景ノ

速カナルコトアリ

アフテハトシツキ

ハハヤキコニホロク

別レテハ參商ノ

潤ナルアリ

ヨリハホシノトホ

久ハナレタルヨウ

大オモヘスル

邇來益復潤焉

タリ

尺尺ト雖邇タ

ルコト江河ノ

如シ

門外是音ナシ

盛使遙カニ臨ム

オツカヒヌワザク

グカサル

月ノ念一賽客千群絡繹トシテ織ルカ如ク

人車雜蹂錐ヲ立ルノ地ナシ。世人大師ヲ仰

ギ厄ヲ除キ福ヲ降スノ。功德アルトシ。熱心

信詣奇ナリト云フベシ。其祠大師河原ニ在

リ金剛山本間寺ト云フ。地為メニ潤フ。亦幸

ヒナル哉

武州御嶽山ノ記

征夷高祖ノ廟依然トシテ嶺上ニ立チ。千山

ヲ服シ。万岳ヲ抱キ。雄然タル氣勢以テ當時

高祖ノ龍驤ヲ想像スルニ足ル。而シテ武野相

海依稀トシテ一矚ノ下ニ在リ。其烟嵐縹渺

ノ景人ヲシテ壯心ヲ喚起セシム。吾曾テ

巡此山ニ登リ。神ノ靈嶽ノ大。一拜シテ去ル

ニ忍ビズ。一絶以テ感慨ヲ寫シ出スノ句ア

リ。

蒲田梅林ノ記

嵐雪曾テ此地ニ題シテ曰ク。梅干忘ル、勿

レ梅花ノ時ト。此句能ク梅園ヲ評スルニ足

ル。其園滿樹皆梅。南蒲三月。花ヲ賞スルノ時

河邊ノ楊柳。烟ヲ帶テ垂レ。惠風鳴禽。人ヲ迎

カヘン

ヤウソウカケリ

オビニ

ケイフカ

メイキン

使者音ヲ諭ス
ツカヒノモノガ、オ
ホセノムネヲツタ
ヘル
ヒテ媚ビ。遊客春ヲ探テ絡繹絶へズ。而ノ梅
干ノ名産世上ニ高シ。

縣吏ニ因テ一

書ヲ奉口至ス

忽チ瑞函ヲ辱
フス

華簡ノ惠アリ

小札ヲ布陳ス

東海五十三驛ノ一ニシテ。京濱ノ間鐵道一

源ヲ信濃ニ發シ。甲斐ニ入リテ東ニ流レ。武
州ニ來リ。荏原橘樹二郡ノ界ヲナシ。鈴木新
田ニ至リ。江戸灣ニ注ク。而ノ其水清ク。其魚
鮮風景ノ美林嵐ノ勝江山百里宛然トシテ
珠ノ如シ。天下ノ名川ナル哉

多摩川ノ記

帶瞬間ニ達ス其臺高ク。驛西ニ連ナリ。山ヲ
負ヒ海ニ枕ニ。近ク袖浦ノ景ヲ擁シ遠ク房
總ノ山巒ヲ望ム。而ノ一目ノ下鐵輪烟ヲ舉
テ來ル。其景無雙名狀ス可ラス

我ニ好音ヲ惠

茲ニ錦字ヲ辱

遙ニ郁雲ニ接

光彩爛々トホ

芳翰燦爛明月

ニ對スルガ如シ

リツハナオテガミ

デツキニムカツタ

如シ。風客騷人杖ヲ曳テ。必至ルノ地ナリ

村トシテ。樹ナラザルナク。樹トシテ梅ナラ

ザルナシ。花時梅香馥郁鼻ヲ衝キ芳雲一株

林ヲ被ヒ。妙見寺畔梅最モ美ナリ。筆ヲ下ダ

スニ臨ミ。往遊ノ景宛然トシテ目ニ在ルガ

ヨウデア
朝來緘ヲ惠マル
ケサゴシメンヲク
カサレマシタ

尺一ニ接シ蓬
華掩映スオテガ
テアバラヤモカヘ
ツテヒカリヲマス
ホドタ

飛動スオテガ
ジガウツクシクイ
キホヒガトヒウゴ
クヨウニミヘル

墨彩燦乎トシ
テ人ヲ射ルスミ
ガヒカリカガヤヒ
テヒトヲテラス

飛動スオテガ
ジガウツクシクイ
キホヒガトヒウゴ
クヨウニミヘル

墨彩燦乎トシ
テ人ヲ射ルスミ
ガヒカリカガヤヒ
テヒトヲテラス

捧讀數四
△コト、イクタビモ
スル

薰盤披讀ス
らウヲタモテラア
ラウテヨムコト

緘ヲ發シテ之
ヲ讀ムイテヨム
カウシシテハルカ

鴻信路遙ナリ
タヨリノクルコト
ガミテトホイ

尺素勞々神馳
スルノミテガミ
キカネ、シンバイヲ
イタス

未々全ク綢繆
マツタ、イウビョウ
イタス

金澤八景ノ記

此地六浦ノ莊内ニ在リ。其佳景西湖ニ似タ

リ晴嵐ハ洲寄ニ好ク。夕照ハ野島ニ映ジ。晚

鐘稱名寺ニ響キ落雁ヲ平瀉ニ見ル。乙艦ノ

歸帆小泉ノ夜雨瀨戸ノ村光ハ秋風ニ晴

内川ノ景ハ暮雪ニ高シ。吾此地ニ至ル四巡

過一過益風景ノ好キヲシル

能見堂ノ記

西北山ヲ擁シ東ハ滄溟ニ連ナリ。千里ノ風

光窮リナク。雲帆風鳥波際ニ縹渺シテ。民屋

漁家樹間ニ隱見タリ。此地ニ筆捨松アリ。起

テ望メハ金澤ノ勝一日ニ歛ムベシ。故ニ能

見堂ノ名アリ。

工部美術館ノ記

萬有ノ性質物品ノ強弱ヲ究明シ。其學高上

化學鑄鑄電信究理土木機械博物製作等工

術ニ関スルモノ。舉テ残スコトナク講明實

踐天下ノ事業ヲ濟成スル。工部ノ學校其建

築宏大壯麗ニシテ。海内無比ト稱スル所。美

術館ノ名宜ナル哉

ヲ致スコトナシ

イマカハラノナカ
ノネンゴロナコト
ヲウツサヌ

河梁ノ後闕然

トメ音疎ナリ

ワカレテヨルオト
サタモナクソエンタ

專人遠ク存問

ヲ辱フス

ホクカラオタツネ
ヲカウムル

翰教懇縷千里

ヲ隔ツモ猶面

スルカ如シ

ヲネンゴロニカイ

⑤ 泉岳寺ノ記

海道高輪ノ高臺ニ在リ。元高繩原ト稱ス。赤

穂義士ノ墳墓ニシテ。其名天下ニ顯ハレ。千

古赫々香烟絶ヘズ。又誠忠ノ致ス所カ

⑥ 増上寺ノ記

長林日ヲ翳ヒ。古松天ニ參ハル。三縁山増上

寺ハ。府下五公園ノ一ニシテ。伽藍堂塔頗ル

宏壯ナリ。明德四年創建スル所。樓門今尚崑

莪タリ。以テ其盛事ヲ想見スルニ足ル

⑦ 愛宕山遠景ノ記

西南富山ヲ迎ヒ。北筑波ヲ眺ム。三方斷崖高

然屹立シテ。一矚ノ下千街萬井。基面石ヲ布

クカ如ク。近クハ芝水ノ海光ニ映ジ。遠クハ

房總諸山ヲ眺ミ。烟景水色微茫タリ。宜ナル

哉。府下一勝概ノ名區タルヤ

⑧ 櫻田教導團ノ紀事

壁額ノ菊章朝旭ニ輝キ。雄然飛翔ノ勢ヲ為

ス。是レ乃陸軍教導團ニシテ。外櫻田霞関ノ

裏ニ在リ。兵ヲ練リ。軍ヲ張ル。此ノ如クナラ

ズンバ。以テ軍團生徒ヲ養フニ足ラス。宜ナ

公務ノ燕間一

カラム

信ヲ吝ム勿レ

オットノノヒマニ
オテガミヌクサ
レヨ

縷々ノ情未タ

面陳ヒズ

ナシシタコトヲイ
マカニマウシアゲ
マセヌ

君ノ東スル大

人秋時ノ書ヲ

致サル

ホル、オト、サマノ
ゴシノシタヨ
ナサレマシタヨ

州ニ抵ルノ夕

使書ヲ奉ジテ

ル哉雄壯飛翔ノ勢アル

東京府紀事

徳盛ニ恩普ク。物トシテ所ヲ得ザルナク。

王政一革宵爽暗昧ノ民モ亦光明ニ耀クコ

トヲ得タリ。乃東京二百萬ノ生靈ヲ管領ス

ル。維新創業ノ明開府タリ。雄ナル哉官廳ノ

風

日比谷練場紀事

外櫻田陸軍教導團ノ東ニ連ナリ。廣袤數千

頃四周環ラスニ。柵ヲ以テシ。時ニ開テ演習

至ル

ヒノモノガテガミ
ヲモツテマヘリマ
シタ

教翰詩冊ヲ齎

シテ至ル

ホンナドヲモツテ
コラレタ

詎ノ想ハン雲

章忽千至ントハ

襟履ヲ仰想ス

ル久シゴヨウスヲ

書入賜フヲ喜

隊々相連ナリ。伍々相列シ。忽合ヒ忽離レ。

砲丸間發恰モ實戦ノ場ニ臨ムガ如シ。誠ニ

壯觀ナル哉。

霞ヶ關眺望ノ記

地高クシテ。四望豁然。烟霞千里。風景ヲ鎖シ

城市交錯。一眼以テ之ヲ歛ムベシ。海ニハ雲

鳥風帆ヲ望ミ。灣ニハ歐艦米舶ヲ視ル。而ソ

霞千山ノ緑ヲ開キ。風萬里ノ春ヲ送ル。真ニ

烟景ニ富メルト云フベシ。

忍岡ノ記

白ヲ浮ベテ
醉フ
累紙懣々ノ情
ヲ披豁ス
尺鯉ノ信アル
滯沈シテ知ラ
一讀欣々把玩
厭カス

齒苞娟々トシテ。池水ヲ照シ。香風簇々。人ノ
袂ヲ襲ヒ。東嶺ノ綠林地塘ノ水波ニ映シ。兩
岸ノ樓欄紅翠煥發シ。人ヲシテ心曾爽然快
意ヲ起サシム。是乃蓮池花笑ヒ。東嶺林媚ブ
ルノ景。忍岡春時ノ勝概ナリ。
○柳橋ノ記
濤聲千壑雨ノ如ク。絃歌一樓ノ春ヲ領ス。是
レ楊柳橋頭ノ景ナリ。而ノ酒肴ヲ陳。不佳游
ヲ恣ニシ。方夫ヲ睥睨シ。一世ノ上ニ逍遙ス
ル者アリ。何ゾ其レ傲ルノ甚シキヤ。斯ノ如

敬テ尺素ヲ脩
仰テ高明ヲ
讀ス
郵信ニ附シ千
里教ヲ待ツ
燈下答ヲ裁シ
筆ニ信セテ書
久ク書問ヲ失

キハ。則世風ヲ破リ天下ヲ害ナフ。者ト云フ
○東橋ノ記
橋東橋西春山媚ビ。方水明ナリ。而シテ對岸
ノ樓閣綠蘋翠揚ノ間ニ隱見シ。花時淡紅濃
白歩々人ニ媚ビ。遠中者ハ招クガ如ク。近キ
者ハ語ント欲ス。此橋ヲ過ギテ。以テ墨水ノ
影ヲ探ル。豈快ナラスヤ
○拾軒店ノ記
上巳ノ節。滿鋪皆大裡。雜ヲ駢列シ。端午ハ乃

スシハラクテガミヲ
 サシアゲマセヌ
 非日專候シテ
 更ニ區々ヲ布
 カンチカキウチニ
 タシテマウシアゲ
 マス
 磬折威施メ相
 寒温スルノミ
 コシテオリセヲカ
 ヲメテアツクサム
 サストフ
 問候屢疎ナリ
 オタツネスルコト
 ガノエンニナル
 一代ノ儒宗
 ヨニタグヒナキカ

現人形ヲ以テシ。歳晚ハ手毬ヲ粧フ。工精千
 呂萬客争フテ之ヲ購フ。是レ只上代ノ遺風
 ノミ。何ゾ天下ニ誇ルニ足ラン。而メ書肆閣
 フ連テ立ち。人智ヲ開キ。天下ニ益スル大有
 益ノ活書ヲシテ汗牛充棟。人目ヲ驚カス。真
 ニ明世文化ノ魁。豈雜毬ト同一視スルヲ得
 ンヤ。
 (六) 駿河臺ノ記
 立テ富岳ヲ望メバ。山面一矚掌上ニ見ルガ
 如シ。則駿臺ノ稱アル所以ナリ。而メ臺上高

クシヤノカシラ
 英氣勃々氷心
 朗照ガサカニデキ
 ガサツバリ
 樞赴シテ謹デ
 門下ニ謝セン
 サンシヤウシテヨ
 クオンレイスイタ
 シマス
 書ヲ裁シテ左
 右ニ鳴謝ス
 テガミヲモツテオ
 ソバノヒトニマウ
 シアゲル
 慰奉權拵ノ至
 リニ堪ルナシ

岡ニ位シ一望豁然貴族高家ノ邸宅層樓石
 閣臺下之ヲ眺メバ。宛トシテ畫屏ノ如ク。北
 麓神田川ノ流ヲ帶ビ斷崖數丈小赤壁ノ名
 アリ。地景ニ富メルヤ。雪ニ宜シク。月ニ宜シ
 ク。又黃鳥杜鵑ノ節時ニ媚ブルアリ。吟情是
 孤ナラザルヲ知ル。
 (五) 茗溪ノ記
 昌平門外數歩ニシテ茗溪アリ。富岳ヲ望ミ
 駿臺ニ對シ。一道ノ清泉万井ニ瀝ギ。以テ府
 下百万ノ生靈ヲ濕ス。而メ雪色千峰ノ月ヲ

ウレシクテヨロコ
ビニクヘラレスホ
ドタ

喜ビ眉宇ニ溢
ルヨロコビノイロガ
ルカホニアラハレル

喜氣融溢
コビロ
イツバイ

我ヲシテ感胃
臆ニ結バシム

切ニ心ニ鏤ム
カンシンスル

今愛ハ聞中ノ
秀ナリ
オムスメ
ハマコト

ニヨイゴキリヨウ
終カニ標梅ヲ
賦ス
コンドマツコ
ノヘマシタ

玉潤氷清ト相
遇フ
ムコトシウト
トゴクナカム
ツマシイ

恭ク華誕ノ辰
ヲ賀ス
ツ、シンデ
コネンガラ
イタス

弄璋ノ舉
ヲト
ウマレタコトライ
フ

熊羆ノ慶
同ジ
懸弧ノ日ニ遇フ

照シ。橋頭一溪ノ烟ヲ鎖シテ千古絶勝吟客
騷人ノ情ヲ傷マシム。烟景雪ニ宜シキ故ア
ル哉。

鶯橋ノ記

晴ヲ負ヒ杖ヲ曳キ騷心勃々。詩情ヲ擅ニス。
水アリ一池竹アリ千竿堂アリ亭アリ。此橋
ニ至テ以テ友ヲ求ムルノ意アリ。名ニ背カ
ズト云フベシ。而メ鶯橋看雪ノ詠モ亦古人
ノ情游ヲ想フニ足ル。
④ 染井ノ里ノ記

小丘平坦ニシテ村々皆茶圃菜郊多ク其間
大小ノ邸宅石閣高樓巍然トシテ空ニ聳ル
アリ。又禪院寺塔アリ。而メ染井ノ里栽菊尤
モ富ミ前彩ノ巧ヲ盡セル艶麗美妍皆粧フ
ニ菊花ヲ以テス。秋時観客游人跡ヲ絶タズ。
又名區ナル哉。

山吹里ノ紀

棣棠一枝花アリ實ナシ。君笑フ勿レノ句ア
リ是寧静子其古歌ヲ譯スル所。村女ノ風流
雅致愛スベク英雄ノ感一激學ニ志スモ亦

子シガノヒニデア
ヒマシタ
弄丸ノ喜ヨロビナノ
ウマレタコトヌヨ
ロコブ

三加ノ祝ニガハヒ
ハヒ

笠服ノ慶ケイカネツ
ケソメ

覽揆ノ辰シシ
ネンガ

清風宇内ニ播シ
シ

クヨキトナヘガヨノ
ナカニイツパイカ

重ネテ飾獎シヤウ
セウ

蒙ムルホメニアツ
カル

故アル哉千古ノ美談今ニ至テ噴々然タリ
此地ヲ過ギ恍トシテ其址ヲ想フノミ

護國寺ノ記

東道灌上野二山ノ連脈ヲ帶ビ北飛鳥山ニ
亘リ其間陸田平郊丘ヲ負ヒ川ヲ擁シ境内
老杉古槻森々林ヲナシ幽邃愛スベシ天和
元年徳川氏創建スル所ニシテ今ヤ此地ヲ
相シ御陵ヲ築キテ神柩ヲ奉藏シ稱シテ豊
島ケ岡ト云フ

根崖村ノ記

褒譽敢テ當ラホウヨ
アタ

スオホメニナルコト
ハワタクシニアマ
ルホドカ

足下鴻舉シ名ソクカ
ホウキョ

声日ニ新タナリコエ
アラ

アナタハゴシユツ
セナサレテキコヘ
ガタカイ

真ニ千里ノ駒マコト
チヨ

ナル哉ワカキ
ヒ

聰穎特異ソウエイ
トクイ

廉聲惠澤遐邇レンセイ
ケイタク

同稱スドウジョウ
スナホクメ

台嶺山下ノ里清閑ヲ貴ブノ地ナリ鶯ニ宜オウ
ヨロ

シク花ニ宜シク月ニ宜シク讀書ニ宜シ而ハナ
ソク

シテ夏夜水鷄ノ聲扉ヲ叩クガ如キアリ鳴カ
ヤス

蛙閣々トシテ喧ク北息ノ下頗ル涼ヲ納ルカ
カ

ルニ好シ

川中島古戰場ノ記

甲越ノ軍銳ヲ撰ビ精ヲ集メテ堅甲利兵兩カウ
エツ

陣河上ニ戦フノ地ナリ昔時ノ山河今尚依チン
カ

然トシテ變セズ草木腥風ヲ帶ビ過クル者ゼン
ヘン

感慨躊躇殺氣ノ身ニ逼ルヲ覺ユ夫レ甲軍カン
ガイ

ヨキトナヘガトホ
キトコロモ、チカキ
トコロモ、ヒトツニ
ホメル

精明治ヲ勵マ
シ聲譽益高シ

温藉高流
ヲサメカタガ、ヨク
ホマレガタカイ、
オンセキカウリ、
ニヒンカウガヨヒ

褒揚ノ聲海内
ニ盈ッ
ホマアゲル、
コヘガ、ヨニ
カマビスシイ

佳會ニ邀ヘラ
ル
ヨキシウカイニ、オ
ムカイヲイタ、ク

昨佳招ニ赴ク

キノウハ、オンマネ
キニマイリマシタ
カシキキ、メイ
忝ク舊盟ニ尋
ク
アリカタク、フルキ
ヤクソクニツキマ
スル

今日相約ス雨
コシチアヒヤク
ハウタ
滂沱タリ
ケス、オ
ヤクソ

零雨濛タリ前
言ヲ踐ムコト
テコマル、
アメガツヨム、フリ

ヲ得ズ
オホア
メフリ
テトテモ、マヘノ、ホ
ヤクソクトホリニ

越兵ハ當時天下ノ精銳ニシテ。白刃交リテ
鐵刀折レ。兩軍蹙ツテ生死決ス。天地モ為メ
ニ愁ヒ。草木モ凄悲ス。浩々乎トシテ平沙限
リナシ。風悲ミ日曛シ。黯トシテ慘悴タリ。天
沈々。雲冪々。嗚呼悲ヒ哉。

英彦山ノ記

筑豊二州ノ國境ニ跨ガリ。山勢峻秀ニシテ。
川流數條高山名水勝ヲ天下ニ擅ニシ。高瀬
上流數里ノ間山水奇絶世ニ耶馬溪ト稱ス
ルモノ乃チ是ナリ。

櫻島ノ記

薩隅内海ノ中央ニ位シ。聳然トシテ天ニ冲
リ其巔常ニ噴烟絶エズ。火光數里ヲ照ラシ。
櫻島ノ勝天下ニ高シ。又我邦ノ埃德納火山
ト云フベシ。

書寫山ノ記

書寫山ハ國ノ東部中間ヲ限リ。攝ノ摩那再
度ノ山脈ニ連ナリ。陽ハ明石。印南ノ郡ニ接
シ。海ヲ隔テ、讚山ニ對シ。北ハ明石ノ浦ニ
亘リ。沿海諸峯眺望最モ好ク。播ノ名山巒乎

ヨキトナヘガトホ
キトコロモ、チカキ
トコロモ、ヒトツニ
ホメル

精明治ヲ勵マ
シ聲譽益高シ

温藉高流
オシヒキカウリウ
オシヒキカウリウ
オシヒキカウリウ

褒揚ノ聲海内
ホウヤウノセウカイ
ニ盈ツ
ホメアゲル
カマビスシイ

佳會ニ邀ヘラ
ルヨキシウカイニ、オ
ムカイヌイタ、ク

昨佳招ニ赴ク

キノウハ、オンマネ
キニマイリマシタ
カシキキクメイ

忝ク舊盟ニ尋
クアリカタク、フルキ
ヤクソクニツキマ
スル

今日日相約ス兩
コンニチアヒヤク
ハクタタリヤクソ
ケス、オ

零雨濛々リ前
レイウモウモウ
テコマル、

言ヲ踐ムコト
ヲ得ズ
オホア
オフリ

テトテモ、マヘノ、オ
ヤクソクトホリニ

越兵ハ。當時天下ノ精銳ニシテ。白刃交リテ
鐵刀折レ。兩軍蹙ツテ生死決ス。天地モ為メ
ニ愁ヒ。草木モ凄悲ス。浩浩乎トシテ平沙限
リナシ。風悲ミ日曛シ。黯トシテ慘悴タリ。天
沈々。雲冪々。嗚呼悲ヒ哉。

英彦山ノ記

筑豊二州ノ國境ニ跨ガリ。山勢峻秀ニシテ。
川流數條。高山名水。勝ヲ天下ニ擅ニシ。高瀬
上流數里ノ間。山水奇絶。世ニ耶馬溪ト稱ス
ルモノ。乃チ是ナリ。

櫻島ノ記

薩隅内海ノ中央ニ位シ。聳然トシテ天ニ冲
リ。其巔常ニ噴烟絶エズ。火光數里ヲ照ラシ。
櫻島ノ勝。天下ニ高シ。又我邦ノ埃德納火山
ト云フベシ。

書寫山ノ記

書寫山ハ國ノ東部中間ヲ限リ。攝ノ摩那再
度ノ山脉ニ連ナリ。陽ハ明石。印南ノ郡ニ接
シ。海ヲ隔テ、讚山ニ對シ。北ハ明石ノ浦ニ
亘リ。沿海諸峯眺望最モ好ク。播ノ名山。鬱乎

ハマヘリマセヌゾ
折簡ノ召辭ス
ルニ米薪ヲ以

テス オテガミム、オ
ツカヒ、ジタイ
スルニ、ヒヨウキ

雞黍ノ約希バ
違フ勿レソマツ
マヘノヤクソクド
ウヅマチガハズ、オ
イデヌ、コフ

茗ヲ煮香ヲ焚
キ以テ長者ヲ
迎ント欲ス

キヤヲタテ、カウヲ
タキテ、ヨイ、オキヤ
クヲムガヘル、

足下ト與ニ觴
ヲ飛バシ白ヲ

奉ント欲ス、オマ
マトヒトツニ、サカ
ハキヌクミカハサ
ン、コトヲノゾム

明日雀舌ヲ煮
テ君ト與ニ遊

バン アシヌチヤヲニ
アソビマシヨウ、

正ニ兄ト談笑
シテ日ヲ永ス

ベシ オマヘサマト、
ハナシヲ、シテ、
ユツク、アソビマ
シヨウ、

トシテ高峻ナリ

錦帶橋ノ記

岩國城外ノ一橋ニシテ。石ヲ疊ミ木ヲ構ヘ
建築奇巧ヲ盡シ。其形筭盤ニ似タリ。而ソ遠
ク之ヲ望メハ一帶錦ヲ曳クガ如シ。橋名特
ニ天下ニ著ハル。又一奇橋ト云フベシ。

百鶴越ノ記

韓信兵ヲ三秦ニ示メス。章邯ノ不意ニ出デ
義經險崖ニ馬ヲ驅リ。一舉平軍ヲ走ラス。皆
戰ハズシテ其勝ヲ得ル。兵家ノ略英將ノ奇

計ト云フベシ。鶴越ハ。攝ノ西隅須摩ノ後ニ

聳テ其山一ノ谷ニ接シ。眼下淡島ヲ望ミ。西

播ノ舞子ノ濱ニ連ナル。風光明媚類ヒナシ。

天橋立ノ記

丹州與謝海ノ灣中沙線一條海中ニ斗出シ。

文珠堂ノ潮水岸ヲ浸シ。青瀾漂渺トシテ。望

極リナク。蒼松一路平沙十里一長橋ヲ曳ク

ガ如ク。恰モ圖画ヲ開クニ似タリ。天造ノ勝

神州三景ノ一ナリ

宇治川戰蹤ノ記

惠來拱ノ燐ツ

オンイデヲセンバ
ンオマチマウヌ

豈料ヤ麗招盛

款ヲ辱フセン

トハ オモヒカケナ
キオマネギヲ
カウムラントハ

僕力暇ヲ期ス

ルハ河清ヲ跋

ツカ如シハヒマ

ヲマツハイツカシ
レナイカステウド
カハノスメルヲマ
ツヤウダ

整ヲ持シ燭ヲ

弓箭ノ士陣ニ臨ミ死スルノ志アリテ生ク

ルノ意ナシ此ノ如クナレバ何ノ戦カ勝タ

ザラン何ノ功カ成ラザラン高綱ノ鎌倉公

ヲ辞スルヤ愛スル所ノ名馬ヲ乞ヒ而ノ先

登ヲ必ス可ラザルノ前ニ決ス其心固ヨリ

生還ノ理ナシ激流馬ヲ驅リ一鞭ノ下先登

第一源軍ヲシテ奮呼河ヲ渡ラシム盛ナル

哉高綱ノ志雄ナル哉高綱ノ武古戦ノ跡想

見スルニ心目凜然タリ宜ナリ功烈百世ニ

輝クコト宇沼川流今尚餘聲ヲ残シ奔湍激

剪リ一話通宵

セシカニヲモチアカ
リラツケテ一バ
ンハナシマシヨク

奉ニ他適スル

コト勿レドウゾ
ウナサレズニオイ
デ

今夜月色正ニ

佳ナリ以テ君

ヲ邀ヘンハヨイ
ツキヨカカラオイ
テナツヘ

賤焉トシテ弊

廬ニ臨マルンゴ
ロニアバラヤハオ

水人ヲシテ毛髮ヲ立テシム

阿蘇嶽ノ記

巍然トシテ九州ノ中央ニ位シ峰巒重疊終

濤ノ起ルカ如ク谷嘯キ水湧キ溪響人耳ヲ

洗フ宜ベナリ山靈地勝天下ノ絶岳タル

高華克禮ノ事ヲ記ス

年十五初メテ一家ヲ經理シ勇奮志ヲ立テ

水磨ヲ作り廢地ヲ開キ牧羊捕魚ノ術ヲ盛

シナラシメ司農會所ヲ起シ蘇格蘭版圖記

録ヲ編スル如キ曠ク宇内ノ稱翫スル所ナ

イデクカサレアリ
ガタイ

意ハザリキ衡

門ノ碧苔長者

ノ轍ニ破レシト

ハカブキモシコトケ
モタウトキヒトス
クルマガアトヲツ
ケルコト

閑暗暮ヲ終フ

頃日盍簪ヲ得

一タビ懿範ニ接

ス

ス

ス

ス

ス

リ。而ノ國ヲ愛シ民ヲ利シ。平昔ノ行爲天下
ノ儀範トナリ。百世朽チズ盛シナル哉。

⑤ 哥蘭的ノ吏ヲ記ス

善人災ヲ受ク。天モ亦其急ヲ救フ能ハザル

カ河水俄ニ溢レ家屋田園盡ク没シ。父子相

共ニ他郷ニ逃ル。而ノ江水環ノ如ク崖谷ヲ

廻グリテ流レ更ニ方位ヲ知ラズ。因テ山巔

杖ヲ立テ其倒ル、ヲ以テ前進ノ方向ヲ定

ム。乃チ一村落ヲ得テ。勤勉勞動遂ニ貨財豊

富ヲ致ス。天ノ善人ニ報ユル其レ亦虚ナラ

久ク芳譽ヲ欽

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ガルヲ知ル

⑥ 徳勤克品行ノ吏ヲ記ス

水師提督徳勤克ハ身ヲ脩ムル清潔吏ヲ行

フ公道ニシテ。危難ヲ避ケス。勞苦ヲ辭セズ。

勇氣アリ智識アリ。其品行良正此ノ如クナ

ルハ何ゾ勉強忍耐乃チ夫爾列爾ノ賞賛ヲ

受クル所以カ。

⑦ 花納爾ノ吏ヲ記ス

儀範ノ鏈條ハ其長キコト極リナシト。且ナ

ル哉嘆美ノ念アリテ。而ノ慕倣ノ心アリ。慕

ヲシタヒマネル
華名四裔ニ飛
照ス ナタカキコト
シハウニマデ
キコヘル

光範ヲ企瞻ス
ヨイヒトノヨウス
ヲミマネスルコト

名聲藉甚
コトハトコニモシ
ツテホル

雅度翻々人ヲシ
テ心醉セシム
スカレタルヨキキ
リヨウガヒトヲヨ
ハセルホド外

碩德雅望
ヨウノヒトニスガ
ヨキキ

唯傾葵ニ切ナ
リヒトヲシタフコト
ヲセツナガルコト

葵心彌々切ナリ
シタヒオモフコト
口ガナカク、タク
サン

欽羨躍然オモス
コトノハナハ外シ
キコト

歸後恍然幾ド
心醉ス カハツテノ
オモフテウツトリ
トスル心ヒチガヨ
ウタヨウタ

龍門一識生平
リヨウモンイッシキセイヘイ

傲ノ心アリテ。而ノ後善良ノ行ヒ。絶妙ノ技。
相續デ生ズ。花納爾曾テ倍根文集ヲ讀ミ。心
志激勸大ニ進脩ノ益ヲ得。自ノ其書名ヲ録
シテ。感發脩成ノ意ヲ明カニス。大學士タル
者此ノ如クナラズンバアル可ラズ。

① 森蘭丸ノ支ヲ記ス

蘭丸小少ヨリ。謹信ニシテ。聰慧ナリ。信長甚
カ之ヲ愛寵ス。其才ヲ驗スル。人ノ意表ニ出
テ。一隅ヲ舉ゲ三隅ヲ知ル。常人ノ及ブ所ニ
非ズ。而ノ言聞カレ。策用ラレ。光秀異志アル

ヲ告グルニ及ンデ以テ讒トナシ容レズ。竟

ニ本能寺ノ變アリ。帝之ヲ傷ムノミナラズ。
蘭丸ノ才奮フテ伸ビズ惜ヒ哉。

② 茶博利休ノ支ヲ記ス

茶博利休風流雅致ヲ以テ。一世ニ鳴リ。亦能
ク剛直方正ノ士ナリ。豊公茶具ニ私アルヲ
疑ヒ。終ニ利休ヲ誅ス。命下タルヤ。敢テ驚カ
ズ。從容自裁毫モ怨言ナシ。其心ノ清。其情ノ
淡ナル。後茶儀ヲ奉ズルモノ。之ヲ慕ヒ之ヲ
貴ブ。故アル哉。

ヲ欣慰スヨイヒ
 シニアソビシリア
 ヒニナリテフ知シ
 ノコ・ロガウレシ
 牀ヲ連ネテ共
 ニ語り臂ヲ把
 テ懐ヲ紓ブトコ
 ラヘテ、カタリヒデ
 フトツテムツマシ
 クハナシヲスル
 和氣霽然トシ
 テ掬ス可シ心
 甚タ之ヲ喜ブ
 オシワナルヨウス
 ガ、イッバイデマ
 コトニ、シタヘ、ヨロ
 コブ

① 本多忠勝ノ吏ヲ記ス
 寧靜子曰ク豊公ノ忠勝ヲ撃ザル。猶曹瞞ノ
 關羽ヲ追ザルガ如ク。英雄襟度ノ豁想フベ
 キノミト。之ヲ評スル至レリ。而ノ豊公金鎧
 ヲ以テ。之ヲ羅致ヒント欲ス。忠勝曰ク。臣ハ
 徳川累世ノ臣属タリ。君恩ノ大輕重ヲ以テ。
 較スベキニ非ルナリト。其忠勇義烈凛トシ
 テ奪フベカラズ。又以テ當時君臣ノ風ヲ想
 像スルニ足ル。
 ② 天徳寺了伯ノ吏ヲ記ス

諄々トシテ善
 ク誨ユンセツニオ
 シヘラシムル
 高風ヲ欣慕シ
 未タ聲咳ニ接
 セズ
 タイテヲルマ
 客ヲ聘シテ金
 鼎茗ヲ煮以テ
 宵茅ヲ開カン
 トス
 ヨイ、カクヌヨ
 ビ、チヤヲタテ
 テ心一パイオハナ
 シンタイ
 益徳馨ニ沐ス

了伯平語ヲ聞キ。演スル所。那須佐々木ノ兩
 士赫々功名ノ事ニ係ル。左右皆聽テ之ヲ樂
 ム。而ソ了伯獨嗚咽歎欷シテ止マズ。他日左
 右ニ謂テ曰ク。汝等我用ヲ爲スニ足ラス。高
 綱先登ヲ約ス。生還ノ心ナシ。宗高扇眼ヲ射
 ル一發中ラズンバ。自刎海ニ投ズルアルノ
 之。吾二士ノ心事ヲ推究シ。涕淚睫ニ交ルヲ
 覺エザルナリ。汝等樂ム可キヲ知テ。悲ム可
 キヲ知ラザルナリト。活眼ヲ以テ活書ヲ讀
 ム。了伯氏ノ如クナラザルヲ得ンヤ。

ヨキフツガノトク
ニナビキフクス

恩蓬戸ニ淡シ

メカミガ、アバラヤ
ニマテカフムル

愛顧ノ隆ナル

一ニ斯ニ至ル

ゴヒイキヲエルマ
コトニ、アリガタヒ
シアハセ

過テ雅愛ヲ蒙

ムル
ワタシゴトキ
モノヲベツク
ンニゴシンセツコ
カウムリカクジケ
ナイ

深ク遠忱ヲ荷

フ
トホクヨリホンド
ウノ、ゴシンセツカ

如クナルヤ

クオサル、コト、ドウ
シテカヨウニアツ

雅愛ヲ受ケ遠

ク恒等ニ踰ユ

ゴシンセツカ、カウ
ムルナミガタニス
ケレル

近口寵光ヲ辱

フス
コノゴロ、ゴメ
ノドウヲ、カウ
ムル

寵異ヲ辱フスル

コト久シ
ゴネン
ガロヲ

○織田右府ノ事ヲ記ス

天下ノ侯伯争フニ兵馬ヲ以テシ。惟利之レ

視名分紊レテ私慾横ナリ右府獨リ。大節高

義以テ天子ヲ尊ビ。皇室ノ再造ヲ致ス。千載

ノ下天下恭順ノ美ヲ知ル。善哉時務ヲ識ル

ノ俊傑織田公ノ如キ

○柴田勝家ノ事ヲ記ス

冒中筭アリ。死中活ヲ求ムル。英雄ノオアル

ニアラズンハ。何ゾ其レ此ノ如クナラン。柴

田氏破缸ノ舉。其二斛水ヲ失シテ。以テ八百

ノ首級ニ換フ勲功赫々。百世ノ下ニ輝ク。英

斷勇奮能ク兵法ヲ知ルト云フベシ。

○山田一豊ノ妻ノ事ヲ記ス

京師簡馬ノ舉名馬ヲ購シテ。一世ノ榮ヲ取

リ。石賊ノ及夫人山内氏。襍書笠糾馳セテ一

豊ニ告グ。一豊解カズシテ。徳川公ニ呈ス。公

之ヲ賞スルニ。大封ヲ以テス。且ナリ異日天

下ニ率先シ。雄揚奮起復古ノ大策ヲ献ジ。以

テ天日ノ光ヲ恢ニス。其素ナキニ非ルナリ。

○稻葉一徹ノ事ヲ記ス

山内

ヒニカウムルコト
ヒサシイ

情義霽然タリ
オナサケクアツク
サカンナルコト

不佞ヲ念フ深ク
推テ家弟ニ
及ブ

我ヲ念フ骨肉
ニ百倍ス

命嚴ニシテ意

伊豫守一徹既ニ織田氏ニ服從シ。信長意未

々釋ケズ。乃若謙ヲ設ケ。竊ニ其臣ニ命ノ之

ヲ圖ラシム。一徹從容壁間拭ル所ノ韓文公

ノ詩ヲ誦シ。一々分解其典ヲ説ク。信長壁ヲ

隔テ之ヲ聽キ。忽然走出。猜疑ノ心頓ニ消ス

夫レ武備アル者。必文事勿ラザル可ラズ。信

ナル哉。一徹ノ能ク。此危険ヲ免ル

○華聖頓ノ事ヲ記ス

華聖頓幼時深沈ニシテ識量アリ。群童其才

ニ服シ。命ヲ重ゼザルナシ。長シテ測量ヲ善

クシ。猛獸ヲ斃シ。能ク悍馬ヲ御ス。又一營兵

ニ將トシ。亞力山大ニ次ス。沛業ト事ヲ論シ

テ合ハス。沛杖ヲ以テ。頓ヲ打チ地ニ倒ス。營

兵噪ギ至テ沛ヲ打ントス。頓從容言テ曰ク

人孰レカ過ナカラシ。能ク改ムルヲ貴シト
スト。平心和氣善ク沛ヲ感動セシム。沛遂ニ
心ヲ輸シテ石交トナル。
○司馬溫公ノ事ヲ記ス
司馬光幼ヨリ穎悟才氣餘リアリ。一日群兒
ト瓶外ニ遊ビ。一兒誤テ瓶内ニ陷ル。衆童錯

懇ナリ。オホセガキ

論ス。ニ芻蕘荒ニ

是レ詢ルヲ以

テス。オハナシクカ

已ニ過愛ヲ叨

狼ニ僚友ノ誼

字々懇到トニ

書辭悃款シヨジツクンクワン ゴシ

辭旨儼美情義ジシシレイビセウギ

兼至カネ シヨメンノ オモムキガ

種々垂意ノ厚レククシウイノカク

渥アツ フス イロ

辭義懇到深シシギクントウフカ

盛意ヲ抱セイヤイウ バコト

縷々千餘言ルルチユイゴン

滿紙皆肺腑マンシシナハハ

恩愛ノ隆ナルオンアイノリウナル

文墨ニ顯ブンボクニケン ハル

文采巨麗ニシブンサイキョレイニシ

愕措ク所ヲ知ラス光獨リ立チ石ヲ採トク テ 瓶

腹ニ抛ナゲ チ 忽 チ 之 ヲ 救 フ ヲ 得 タリ 又 女 兒 青

君見テ之ヲ叱シツ ス 是 ヨリ 光 敢 テ 漫 語 セ ズ 遂

二大儒トナル宜ム ベ ナ ル 哉ガク 學 豐 カ ニ 識 博 ク

才藻煥發百世ニ輝カキ ク 教育其素アルヲ以テ

陽氣ノ發スル所キンセキニナトホ 金石皆透セイヤシ ル 精神一到何事

真匡衡勤學ノ記

カ成ナ ラ ザ ラン 大學ダイガク ヲ 成 シ 大儒ダイジュ ト 稱 ス ル 者

精カ必ズ人ニ超チ 絶 ス 匡キョウ 稚 圭 家 貧 ニ シ テ 學

ヲ好コト ミ 傭 作 以 テ 資 用 ニ 供 ス 常ツネ ニ 燭 光 ナ シ

隣舍燭リンシャジュウ アレ 尺 及 バ ズ 乃カバ 壁 ヲ 穿 チ 其 光 リ ヲ

引ヒ テ 之 ヲ 讀 ミ 而 シ テ 後チ 富 家 ニ 客 作 シ 書 ヲ

得エ テ 遍 ク 之 ヲ 讀 ミ 遂ツヒ ニ 大 學 ヲ ナ シ 儒林ジュリン ノ

貴タカ ブ 處 ト ナ ル 張翰チヤウカン 郷 ヲ 想 フ ノ 記 奏ソウ 之

張翰郷ヲ想フノ記 奏之

曠達クワンダツ 一 世 ヲ 韜 之 機 天 下 ノ 勢 ヲ 知 ル 俊傑ジュンケツ ノ

士シ ニ 非 ン バ 能 ハ ズ 張翰チヤウカン 秋 風 ノ 起 ル ヲ 見 テ

テ慰諭最モ濃

カナリ

トテナグサスサト

厚ク下交ノ誼

ヲ賜フ

メシクカサレタ

洪恩未カ酬エ

マニオレイイタサ

竟日教ヲ奉ジ

分夜ニシテ歸

ルイチニオハナシ

家山ノ尊美鱸魚ノ鱠ヲ想ヒ千里駕ヲ命シ

テ歸ル曰ク人生志ニ適フヲ貴ブ何ゾ名爵

ヲ求メンヤト曠達機ヲ知ルニ非ンバ焉

斯ノ如クナラン

孫康讀書ノ記

勉強忍耐以テ其道ヲ求メバ讀書萬卷何ゾ

難シトスルニ足ラン學バズンバ即チ止ム

ノミ孫康家貧ニシテ油ナシ雪ヲ映ラシテ

書ヲ讀ミ小少ヨリ堅確不拔卓然惑ハズ終

ニ其志ヲ成ス世ノ學ヲ勤ムル者暖衣逸居

ナカニカヘル

隆情ヲ酬暢シ

テ遂ニ久擾ヲ

忘ル

トウクナカイス

感惠極リナシ

カンズルコトフカ

鎔範ヲ叨リニ

スルヲ獲タリ

オシヘヌイタッキ

ゴエンリヨ申サヌ

眷撫愈重シ

ゴネンゴロ大コト

ハナカクアツイ

口ニ國史ヲ誦シ積ニ漢書ヲ藏メ洋書其美

ヲ飾リ終身功業ヲ成ス能ハザル者豈恥ツ

ベキノ甚シキニ非スヤ

皇車胤螢ヲ集ムルノ記

學固ヨリ大ナリ一朝ノ力焉之ニ通曉ス

ルヲ得ン夫レ寒素貧困夜學以テ其燭膏ヲ

得ル能ハス而ノ志操益鞏ク苦學勵精恭勤

倦マズ晋ノ武子ノ如キ夏月練囊螢火ヲ照

ラシ以テ書ヲ讀ミ夜以テ晷ニ繼ギ儒名終

ニ天下ニ顯ル學ニ志ス者豈斯ノ如クナラ

明教ヲ奉シ雅

意ニ負クコト

ナシアリガタキオ

キオウセニソムキ

ハイタシマセヌ

何ハ此言ニ術

遇セザランヤ

トウシテオホセノ

コトバニカンジイ

ラヌトイウコトガ

ゴガイマシヨウゾ

興起佳勝

ガオスグレナサレ

テヨロシイ

介福駢ト臻ル

ヨキオシアハセガ

カニセズゴヨウス

ハツキリイタサス

臺下福履万祥

アタタサマハヨキ

オシアハセ

宣闡静嘉ヲ賀

スゴソボサマオタ

スツシヤデオクラシ

太夫人起居万

福 オフクロサマ、マ

ザルヲ得ンヤ。

⑤ 相如橋欄ニ題スルノ記

千仞ノ山百仞ノ溪ニ入り其危キヲ恐レザ

ルハ獵夫ノ勇ナリ。渺洋万里鯨濤ヲ破ツテ

進ムハ艦夫ノ勇ナリ。而シテ大勇奪フ可ラ

ザルモノ。百折千挫精神卓然トシテ屈セズ

相如橋欄ニ題スル。其志成ラズンバ。死尚歸

ラサルヲ示スナリ。雄偉活潑精神天地ヲ動

カシ。千載ノ下人皆之ヲ賞ス。

⑤ 司馬光警枕ノ記

賢才卓絶濟世ノ業ヲ成スモノ。思慮万深常

人ノ企テ及ブ可ラザル所。司馬光警枕ノ如

キ。夜寢以テ意ヲ誠メ。終ニ博洽ノ大儒トナ

ル。辭藻宏麗百世ノ下。嘖々然トシテ。歎賞措

カズ賢ナル哉。

⑤ 湊川楠公ノ記

神州ノ氣磅礴天ニ冲リ。千載ノ下。誠忠日月

ニ輝クハ乃楠公赫々ノ功績千古ニ乘駕シ

万世ニ亘リ。天下ノ人ヲシテ。感激奮起功名

ノ志ヲ高カラシム。其功ノ大ナル徳ノ曠ナ

二尊人萬福至
極ゴリヨウシンサ
ママスクオシ
アハセ

老兄近状益々
壯ナリアナタサ
マチカゴ

故郷ノ新舊更
リナキヤ否イナ
ヤ

雄章珍葉孤使
遠ク馳スゴシメ
メツラシキクワシ
ヌクダサレトオク

札教屢及ヒ豊
祝續ニ至ルガミ
ガタビイイロク
ダサレモノガアル

彩筆彩牋文房
ヲ照輝スミゴト
ガミクダサレヘヤ
マデモテリカギヤ
クヤウタ

魚蝦海鮮華貴
ヲ辱フスメヅラ
シキエ
バヤサカナヤキジ
ヲイタツク

時果一藍ヲ貢
聊カ芥私ヲ

ル天地モ包ム可ラスカウカイ江海モ載スル能ハズ
其氣ハ秀テ、金剛山ノ嶺ニ鍾マリ。其靈ハ

赫トシテ。湊川ノ水ニ映ジ。當時志士ヲシテ。

嗚咽歔歔痛恨ニ堪ヘザラシムルモ。今ヤ

天詔一發辱ク官幣ヲ賜ヘ惹蒿悽愴神威益

顯ハル

寧靜子曾テ宇内ノ英雄ヲ歷論シ。定メテ三

傑トナス。豊太閤忽必烈那波烈翁皆蓋世ノ

雄ナリト。能ク評シ得テ妙夫レ豊公ハ雄膽

大略人奴ヨリ起リ。神州全國ヲ總ベ。鷄林ハ

道ヲ席卷シ。威武赫然四百余洲ニ震フ。而ノ

小少ヨリ行爲ノ非凡智畧ノ俊用兵ノ巧ナ

ル。世譽キ人慄ル所。筆墨ノ間豈何ゾ記露ス

ルヲ得ン其群雄ヲ鞭撻シ。乱略ヲ戡定シテ

富貴其身ヲ終フハ。必烈破崙ニ勝ルヤ遠シ

東京裁判所ノ記

天下ノ大道ヲ以テ。天下ノ大法ヲ施シ。曲直

正邪判然トシテ。明鏡ニ對スル如クナルハ。

伸ブ ジセツノクダ
モノヒトカゴ

ヲサシアゲイサハ
カコ、ロモチヲノ
ベマスル

新茶一筋聊カ

清賞ニ充ツ

シンチヤヌヒトツ
、ミ、サシアゲマス
ゴフウミヌネガヒ
マスル

嘉贈遠ク致サ

ル何ヲ以カ之

ニ酬シ ヨキオクリ
モノヲクダ
サレドウシテ、コレ
ニムクヒマシヤウ

謹ニテ恩賜ヲ

古へ鉤拒ノ術ヲ以テスル類ニ非ズ。其場ヤ

八重洲町ニ在リ輪焉魚焉壯麗ノ美怯夫猥

人ヲシテ落膽セシムルニ至ル方今明運ノ

聖代ト虽尚法權ヲ擴張セザルヲ得ズ宜ナ

リ此場ノ壮大ナルヤ

○ 博物館ノ記

國ノ開明富盛ナル所以ハ人智ノ増進ニ因

ラズンバ能ハズ。人智ノ進ム競争心ナカラ

サル可ラズ夫レ此競争心ヲ開クハ千器万

品ヲシテ。矚目指顧ノ間心裏ヲ刺衝セシム

領ス オリイツテク
タサレモノヲ
イタヅキマス

恩岳瀆ヨリ重

シ肝銘志レス

メグミガウミヤマ
ヨリモ、タントテハ
ラーバイ、ハスラレ
マセヌ

賤支紛擾庭ニ

踵リ叩謝スル

能ハズ セジガイソ
ガシキニマ
ギレマカリイデハ
オレイヌイタスコ
トモデキヌ

菲儀篋留セラ

レバ幸甚 カウジン

ルニ在リ。是ニ於テカ博物館ヲ山下門内ニ

開キ。衆庶ヲシテ縦觀セシム。嗚呼盛ナル哉

○ 國立銀行ノ記

嶄然トシテ海運橋頭ニ屹立スル。練磚鐵造

ノ高閣ハ。乃國立銀行ニシテ。天下ノ理財千

百カノ資ヲ握リ倉廩安豐其利江ノ如ク。其

業山ノ如シ。此店ヤ府下鍊瓦ノ鏡楚ニシテ

海内各地銀行ノ權輿タリ。建築壯麗真ニ駭

愕スルニ足ル。

○ 日本橋ノ記

ツマラヌモノテモ
オントリヲキクカ
サレバシアハセデ
アル

紅紫錦ノ如シ

兄ヲ花下ニ迎

テ劇飲セント

欲ス

ハナガウツク
シクサイタカ
テアナタヲヨビテ
サカモリヲイタシ
マシヨウ

雅懷雜黍ヲ嫌

スルナクハ徑

ヲ掃テ迎エン

アナタノ心ガマツ
ヒモノデモオキラ
ヒナクバサラジシ

府下東阡南陌中央ノ橋ニシテ。萬治元年創

立ニ係リ。全國官道里程ノ基首タリ。西富山

ヲ望ミ。南京橋ニ接シ。東ニ江戸橋アリ。北ニ

水町アリ。人車雜踏絡繹トシテ絶ヘズ。万方

士民始メテ都ニ入ルノ時地理以テ正鵠ト

ナス。此橋ニ立チ。旭日親ク東海ニ出ルヲ見

ル故ニ日本橋ノ名アリ

人形街夜觀ノ記

白日已ニ没シ。西井ノ燈燭花ノ如ク連ナリ。

暗夜紅光天ヲ燬ガシ。隣近諸賈争フテ其利

テオムカヒマウシ
マス

桃夭時ニ及ビ

花燭輝ヲ争フ

オムスメゴハゴコ
ンレイニオザシキ
モオミゴト

綺席邀ヒラル

ゴコンレイハオザ
シキニオンマネギ
クオサル

豈趣賀セザラ

ンヤ

ロコビヲイタサズ
ニオラレマシヨウ

六禮畢ルギモメ
デタクスム

ヲ射ル。而ノ奇品異物新陳雜聚シテ恰モ百

花爛熳ノ下酒器狼藉タルガ如シ。是府下夜

觀第一ノ景象ナリ。

水天宮ノ記

蠣殻町有馬邸内ニ在リ。安徳帝及ビ建禮門

院ヲ祀ルモノニシテ本社筑後ニ在リ。明治

五年此地ニ遷座ス。月ノ初五兒女賽客花ノ

如ク霞ノ如ク争フテ福ヲ祈ル。夫レ神ハ非

禮ヲ受ケズ。誠ナレバ必祈ラザルモ。亦以テ

幸ヲ受クベシ。兒女何ゾ迷フノ甚シキヤ

詩酒賞會灼々

トシテ明ナリ

シヤ、サケノガシキ
ガハツキリアキラ

歸驂近キニ在

リ縷々郊迎ノ

日ヲ期スオカヘ

カクナツタカラ、イ
ロクオモフコトモ

欣慰何ゾ聲ン

ヨロコビ、ウレシイ
コトガタクサンアル

勝情高興想フ

可キノミスグレ
スグレ
テメズ

霞ヶ浦ノ記

千里一色曠觀類ヒナク。山ニ枕ミ海ヲ負ヒ

波山彷彿雲ノ如ク霞ニ似タリ。西浦ノ烟北

浦ノ霞水光絶色乾坤ヲ照ス。而ノ表延十里

支流縦横潮來十六島ノ名アリ。千載ノ佳色

美ヲ東湖ニ恣ニス。

琵琶湖水ノ記

湖山ノ風色名勝ヲ天下ニ擅ニシ。高霞映發

シテ。明月光リヲ洗ヒ翠巒影ヲ落シテ草木

画クガ如シ其状ヤ琵琶ニ似タリ。名ノ因テ

家醞已ニ熟ス

ラシキコトガ、サツ
トオモハレマズル

今ニ至テ足下

テヅクリノ、サケガ
デキアガリマシタ

裁鑿ニ服ス

イマトナリテ、アナ
タノオメキ、ニ、カ
ンフケイタシマシ

醇耐暢ルニ足

ル多談ヲ用ズ

ヨキサケニテ、心ヲ
ナカサメ、ムヨウノ
ハナシハイフマデ

モナイ

濁醪磊塊ヲ澆

以テ起ル呀ニシテ。神州第一ノ大湖ナリ。周
回七十餘里湖中ニ四島ヲ抱キ。天造ノ八景
千古ニ且リ。風雲百變騷客ノ詠賞ニ飽カサ
ラシム。而メ涼船酒ヲ載セ墨水芝烟ヲシテ
独リ其景ヲ擅ニセガラシムルト云フベシ。

海軍省ノ記

築地南海ニ立チ雄然トシテ海光ニ映ジ建

築ノ壯麗粉碧相照ラシ。旗章天風ニ飄リ。鐵

艦海波ニ浮ビ。山ノ如ク林ノ如ク萬里鯨濤
ヲ衝キ。宇内ニ縦横シ天下ヲ睥睨ス。其策ヲ

シ復道ヲ可キ
モノナシ

酒腸自ラ滌
真ニ大快ナリ

一讀与藥ヲ啗
ムガ如ク快甚

シイチドヨシロヒ
イモノヲタベタヨ
ウデウレシサガタ

三齋七俎ニ對
スルガ如シ

馨音咽間ニ留
覆ス

瑶什一展字々
飛動ス

イチジゴトニトビ
ウゴクヤウカ

講ズル。此省ニ在リ宜ナリ其氣天ニ冲リ雄
然海光ニ映ズルヤ。

東京名園ノ記

東京ノ地名園少カラズ東名一ニ居ル游觀

ノ地偕樂ノ場四時其勝ヲ擅ニシ高亭大榭

壯麗類ヒナク池塘芳樹艶鮮限リナシ蓋シ

京城ハ冠蓋ノ會スル所流風ノ漸ム所其盛

ナル知ルベキナリ園中ノ美千奇万種宇内

ノ勝英ヲ集メ天下ノ大觀ヲ樂ム而シテ園

園ノ興廢ハ京城ノ盛衰ニ係ルト是レ宋ノ

李文叔一感慨ヲ寓スルノ言當時公卿大夫

ヲシテ天下ノ治忽ヲ誠ム余東台ニ遊ハ毎

ニ堂塔一時ニ兵燹ニ罹リ莽蕩殘破僅カニ

東照宮ノ一祠ヲ見文叔感慨ノ言ヲ想ザル

ナシ嗚呼天下一旦變アリ城郭ノ堅其災ヲ

蒙ラズ園却テ焦土トナル唯花樹青松依

然トメ艶清ヲ一山ニ恣ニシ遂ニ明治

聖代ノ春ニ媚ブルニ至ル

名家小學紀支文題卷之上終

明治十二年二月廿七日版權免許

同 年六月

出版

定價三錢

巖手縣平民

編著人

齋藤時泰

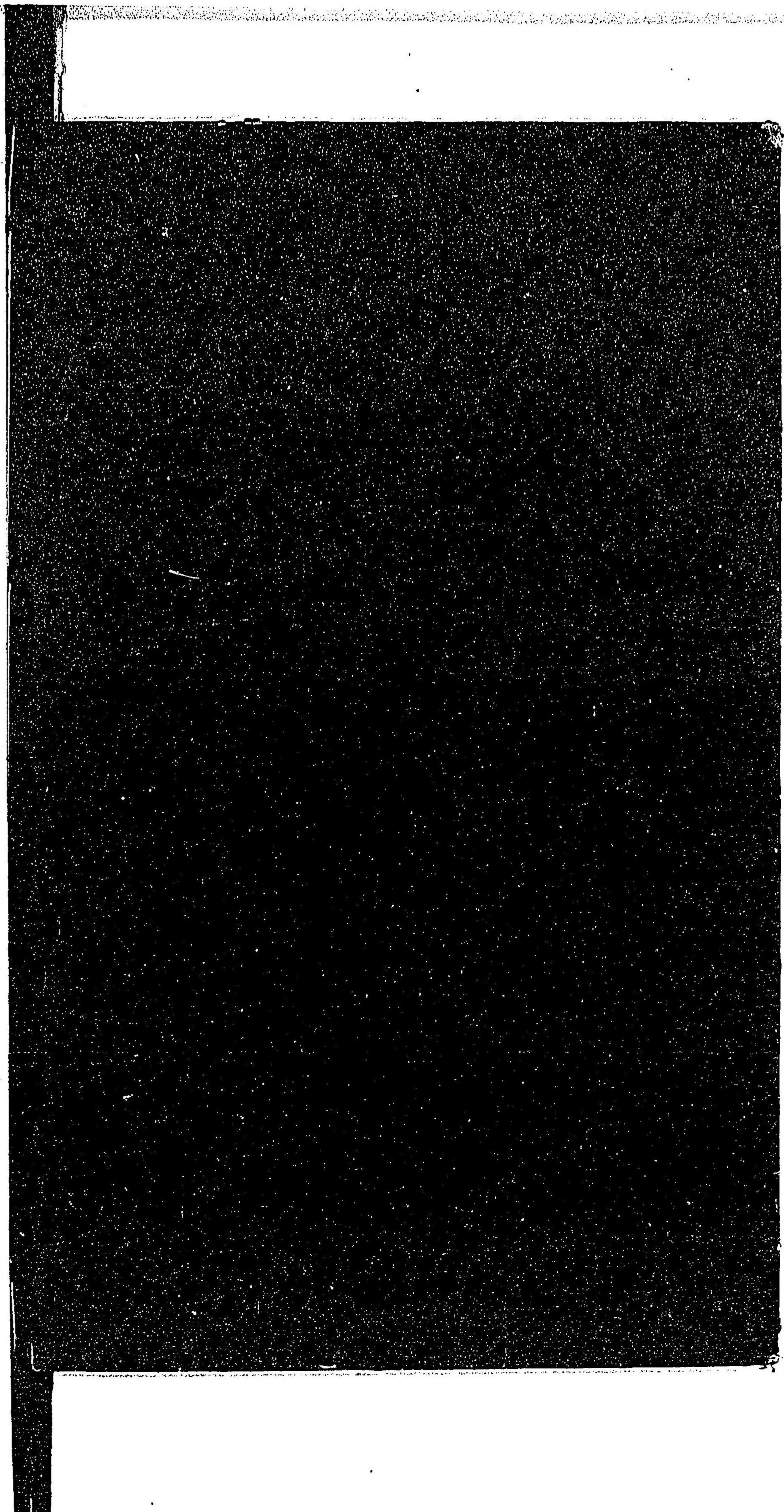
東京神田區裏猿樂町
四番地

東京府平民

出板人

江島喜兵衛

同 日本橋區本石町
二丁目九番地



特34

764

東奧濟藤時素著

小學紀文題序

江島高次郎藏

小學紀文題序

天地之元音。發於人聲。人

象形。寄於點畫。有然

後有文章。有文章焉。

其辭。金玉其手。恢擴

性靈。發揮才調。今也海內

人文。麟焉炳焉。都乎感哉。而

